

第2 本事案の事実関係

1 葛西 りまについて

葛西 りまは、平成15年1月24日、父・[REDACTED]と母・[REDACTED]の間に、次女として出生した。長女として2歳上の姉・[REDACTED]がいる。

葛西 りまは平成21年4月に、青森市立女鹿沢小学校に入学、平成27年3月に卒業し、同年4月、青森市立浪岡中学校（以下「中学校」という他、必要に応じて「浪岡中学校」という）に入学した。

おとなしそうな印象を受ける一方、1年次は、前向きで頑張ろうとする様子が見られ、積極的で率先して役職などを引き受け、クラスを引っ張っていくタイプであったとされる。

小学校時代に始めた手踊りに意欲的に参加しており、地域の行事への参加、全国大会で優勝した経験を持っている。

1年次当初、クラスの副会長、学年では学年会長を引き受けている。部活動は女子バレーボール部に所属した。1年次1学期の6月初めより、体調不良を原因とする欠席等が増え（6月欠席4日、7月欠席3日早退1日）、2学期の始業時より9月前半14日までで、欠席が5日、早退が4日となっている。9月18日には起立性調節障害の診断を受けた。

その後も、2学期の間は、欠席15日、早退2日、遅刻1日と体調の不良がみられる。11月には、女子バレーボール部[REDACTED]のすすめを受けて、女子バレーボール部から美術工芸部に転部している。

3学期も体調不良は続き、相当の日数欠席等をしている（欠席17日、早退1日、遅刻6日）。

2年次には、クラス替えの結果、新たな人間関係の中で、1学期始めの4月の間は、欠席等がなく回復も見られた。その後、5月には、感染性胃腸炎による欠席ほか若干の欠席にとどまっていたが、6月8日以降、6月の欠席が目立って増えている（欠席8日、早退2日、遅刻2日、なお、7月は欠席3日、遅刻1日）。

葛西 りまは、2年生の2学期が始まる始業式の翌日の、8月25日午前10時4分頃、JR奥羽本線北常盤駅の弘前発青森行きホーム下で轢死した。遺書がスマートフォンに残されており、自殺とみられる。

2 葛西 りまをめぐる人間関係

(1) 中学校について

中学校は、1年生は5クラス161名（男子92名、女子69名）、2年生は5クラス141名（男子74名、女子67名）、3年生は5クラス180名（男子92名、女子88名）で、総数は482名（男子258名、女子224名）である。

中学校は、平成17年4月の南津軽郡浪岡町と青森市との合併により、青森市立の中学校となった。6つの小学校から入学者がいるのも特徴で、2年

生の出身小学校別では、浪岡北小学校54名（男子31名、女子23名）、浪岡南小学校43名（男子23名、女子20名）、女鹿沢小学校31名（男子15名、女子16名）、浪岡野沢小学校10名（男子6名、女子4名）、本郷小学校19名（男子13名、女子6名）、大栄小学校1名（男子1名）となっており（なお、男子3名が他県からの入学者である。）、浪岡北小学校及び浪岡南小学校を除いては1学年1クラスである。これら6つの小学校の卒業生は、例外的に他の学区の中学校または私立中学校に進学するほかは、すべて浪岡中学校に入学する（市外の中学校に1名、私立中学校に男子1名、女子2名）。

中学校には、部活動が22あり、その内訳は、女子バレーボール部、バスケットボール部（男女）、野球部、サッカー部、陸上部、ソフトテニス部（男女）、ソフトボール部、バドミントン部（男女）、卓球部（男女）、柔道部、美術工芸部、文芸部、剣道部、吹奏楽部、科学部、家庭部、パソコン部、ボランティア部である。

（2）1年次のクラスにおける人間関係

ア クラスの概要

葛西 りまは、中学校に入学し、 教員の 教諭の担任する1年3組（以下、本項においては「クラス」という）に所属した。クラスは、男子19名、女子13名の計32名、出身小学校別の内訳は、浪岡北小学校出身者10名、浪岡南小学校出身者8名、女鹿沢小学校出身者6名、浪岡野沢小学校出身者4名、本郷小学校出身者3名、その他1名である（大栄小学校出身者はいない。）。因みに、男子では、テニス部所属が6名、サッカー部所属が4名、陸上部所属が3名、パソコン部が1名、その他、バスケットボール部、バドミントン部、学校外のクラブチームが各1名、女子では、美術工芸部が4名、バスケットボール部が2名、女子バレーボール部が2名、ボランティア部が2名、その他、吹奏楽部、卓球部、陸上部が各1名である。葛西 りまは、女鹿沢小学校出身で、女子バレーボール部に所属している。

イ クラス組織と人間関係

入学当初、生徒は、教卓からみて左側から、男女別交互の列で名簿順に席が決められた。1列目は男子5名、2列目は女子4名及び男子1名、3列目は男子6名、4列目は女子5名及び男子1名、5列目は男子5名、6列目は女子4名及び男子1名である。また、1列を前後に分け、2列ずつの組み合わせで男女が等しく交じるように班が編成されている。

葛西 りまは、教卓の右前の列に当たる4列目の2番目の席で、教卓に向かって前の 、後ろの と、3列目の男子3名（教卓から近い席から順に、 、 、 ）が同じ班となった。

なお、その後の席替えは、基本的には、班編成が変わらないような形でなされた。ただし、5月の席替えにおいては、 と葛西 りまは班が

分けられており、葛西 りまは、[] 以外はこれまでのメンバーと同じ班であり、[] は、[]、[]、[]、[]、[] と同じ班になっている。

クラスには、学年生徒会役員にもなる学級役員として会長1名、副会長2名が置かれ、同じく学級役員として2ヶ月に1回程度行われるクラスでの話し合い等の司会を務める議長1名、副議長2名が置かれている。他に専門委員会として図書委員2名があり、特別委員会として応援委員、選挙管理委員があり、応援委員は文化部所属者を基本として5月に、選挙管理委員は10月に委員会がそれぞれ組織され、委員は議長他いずれかのものが兼ねることとされていた。学級役員は半期で交代することとされていた。

学級役員は、当初立候補で決められ、当時、[] の立候補者はなかなか出なかったが、[] が手を挙げ、[] と席が近かった [] が [] の誘いで立候補して [] に就任し、経緯は定かではないが、葛西 りまが立候補で副会長に就任した。[]、[] も立候補で決められ、それぞれ [] には []、[] には []、[] が就任した。クラスでは、会長、副会長はあまり果たす役割はなく、話し合いの司会をするという点で、議長が中心となった。また、学年会長は、本来、学級の会長の中から選ばれるが、当時、各学級会長が消極的な中で、葛西 りまがこれを引き受けている。

また、班においては、話し合いで係が決められ、学級役員を含めて、それぞれ学習係、生活係、集会係、整美係、広報係、保健給食係が選ばれている。葛西 りまの班（入学当初のもの）では、学習係に []、生活係に []、集会係に []、整美係に []、保健給食係に [] がそれぞれなり、葛西 りまは広報係になった。各班の係は係ごとの話し合いもなされ、それぞれの係に係長、副係長を置き、その他を係員としている。

ウ 中学以前の人間関係とクラスの人間関係

中学校は、6小学校から生徒が集まって学年を構成しているが、小学校は、それぞれ1学年1クラスまたは2クラスであり、同じ小学校で互いに既知であるほか、異なる小学校であっても、小学校時代に交流もあり知り合っている生徒もいる。

葛西 りまは、手踊りを、小学校2年生より続けており、同じ [] に、同じく [] 小学校出身の [] の他、[] 小学校出身の [] がおり、3人は、中学校入学前から、その意味で気の知れた友人関係にあった。また、葛西 りまと [] は、ともに女鹿沢小学校で、ニンテンドーDSで []（浪岡南小学校）とフレンド登録をしており、その関係において相互に知っていた。

また、[] は、同じ小学校の [] と保育園時代からの友人で、[] は、そうした関係から、[] と手紙を交換するようになった。

ていた。小学校のとき、葛西 りまは、[]に連れられて、[]
およびもう1人と4人で遊んだことがあるとしている。そうしたことから、
入学後すぐ、[]と葛西 りまは自然と話すようになった。

他に、[](浪岡南小学校)と[](浪岡北小学校)は、小
学校時代、おなじミニバスケットボールのクラブに入っており、中学生の大
会に参加することがあったとされる。[](浪岡野沢小学校)の[]が
バスケットボール部で、[]は、その大会の折に、[]と一緒に来てい
た[]と知り合っている。

また、[]は浪岡北小学校で[]と友人であり、こうした関
係を介して、[]、[]、[]、[]らは、小学
校時代に、一度遊びに行ったことがあるとされ、LINE上での友達の登録
を行っていた([]と[]のそれとは別にLINE上で友達で
あったともされる。)

葛西 りまも、こうした関係とは別に、中学校で行われた浪岡音楽祭の行
き帰りのバスで、おそらく[]と知り合っており、浪岡北小学校のメ
ンバーを中心とした[]、[]、[]とこうした関係で
知り合った[]、そして葛西 りまとでスケートに一度行く機会があ
った。

なお、[]と[]が小学校時代から互いを知っており、その
関係で、葛西 りまは、[]を知っていたとの話もある。

そして、中学校でクラスが発表されたあと、LINEで、クラスが同じこ
とについて直接連絡がなされ、クラスで一堂に会したときには、[]、
[]、[]は、すでに友人であり、葛西 りまも既知の関係で
あったことから、自然に仲がよくなっていった。

エ クラスの友人関係

葛西 りまは、入学当初、[]と席が前後であった。また、[]
と[]は同じバスケットボール部であり、同じく小学校時代にはバ
スケットボールをやっていた[](中学校では[])とは小学校時
代より知り合っており、葛西 りまも[]を既知しており、
葛西 りまと[]がすでに知り合っていたことから、女子の中で4人
は、入学後すぐに話すようになっている。なお、この関係に、[]、
[]は加わることはあまりなかったようである。傍からは、葛西 り
まは、[]や[]と一緒にいるのではなく、むしろ、[]
らと一緒にいることが多く、[]とは二人でプリクラを撮るなど、
当初は気のあった様子が見られる。

葛西 りまは、クラスの中で積極的に振る舞っており、おとなしそうな見
かけとは異なり、学級の副会長、学年の会長になるなど、表に立ち引張っ
ていく一面があったとされる。[]は、声も大きく、授業中も自分の
意見を臆せず言うところがあり、自分に自信がある様子もあり、目立ってい

た。■■■■、■■■■も目立つ存在であり、このため、このグループは目立つグループとみられるようになり、いわゆる「一軍」とみられるようになった。

■■■■は、求心力があり、影響力があつて、こうした友人間でも、■■■■とよりいい関係でいたいと思う傾向があつたように見受けられる。葛西 りまも、おそらくそうであつた。他方で、■■■■は、葛西 りまが思っているほど葛西 りまに好意を持っていたわけではなく、逆に、当初より、「合わない」と思っており、自分と仲のよい生徒と一緒にいたことから一緒にいただけともしており、LINEで知っていただけでなれなれしく仲間だという態度に嫌悪感を抱いていたとの話もある。

このグループはクラスを越えて仲のいいメンバーもおり、■■■■などがそこにいた。このグループは、クラスでは楽しく、賑やかな雰囲気を出していた。しかし、このグループをめぐるトラブルはクラスを越える形でしばしば起こっており、4月当初、■■■■、■■■■などが被害を訴えているが、その中心には、■■■■がいたとみられる。ただし、外す外さないのトラブルがあつても、次の日には仲良く遊ぶ様子も見られることもまたしばしばあつたとされる。■■■■らの暴言は、2学期から3学期にひどくなり、教員に対しても向けられたとの話もある。

クラスの他のメンバーとしては、■■■■、■■■■、■■■■、■■■■が同じ美術工芸部として仲がよかつたとされる。これらの生徒は、■■■■、■■■■とも仲がよかつたとされる。■■■■は、■■■■と仲がよく、葛西 りまとも近い関係にあつた。いずれも人を受け入れる優しい生徒たちであるとされる。■■■■(■■■■)を除いていわゆる文化部に属しているが、部活動終了後、帰宅のバスの時間まで教室で待つことも多く、おとなしいという感じではなく、むしろ話し好きの側面もある。また、このうちの■■■■は、同じ小学校出身の■■■■、■■■■とも仲がよく、のちに、葛西 りまは、女子バレーボール部から美術工芸部に転部し、美術工芸部のメンバーや、■■■■、■■■■、■■■■といふことも多かつたとされる。

他方、クラスの男子については、■■■■、■■■■、■■■■、■■■■は、運動部で引っ張っていくようなメンバーであり、仲もよかつた。授業参観などでも騒ぐなど、どちらかというとうるさいメンバーである。■■■■と■■■■は、小さい頃から仲がよく、■■■■も同じ小学校の出身として■■■■と仲がよかつた。■■■■は、このメンバーとも仲はよく、■■■■や■■■■などもよく話していたとされるが、一緒に騒ぐという関係ではなく、他方で、■■■■と話すなど誰に対しても等しく接していた。

また、■■■■は、■■■■と小学校が一緒に仲がよかつたとされるが、■■■■ともよく話しており、等しくいろいろな生徒と接している。その他、クラスでは、おとなしいメンバーがおり、部活動が一緒などで仲が

良いなどの関係が見られた。

クラスの中では、[]は、口調が強く怖い存在としても見られており、[]には嫌われたくないと感じている生徒も多かったとされる。[]と仲のいいメンバーが「一軍」と呼ばれており、男子のいわゆるうるさいメンバーは、[]に嫌われないように、[]の言うことは聞くという力関係にあったとされる。[]は、クラスの中でも、気に入らないと暴言等を吐くことが多く、文化部を中心とした女子のメンバーに対しても、体育の時のミスなどに対して強く当たることなどがあったとされる。こうした[]も、[]との関係では、むしろ省かれることもあった。[]は、小学校が同じ[]組の[]と親しい。また、[]は、学年としても力を持つようになり、[]小学校で目立っていた[]とも仲良くなっており、いわゆる「一軍」のLINEグループを作っていたとされる。

なお、[]は、納得いかない部分があると人と折り合わない部分があり、[]とぎくしゃくした関係にあったとされている。いわゆる「一軍」メンバー以外の女子は、いわゆる「一軍」メンバーとの関係性の中ではおとなしかったとされるが、同じメンバーだけが集まると好きなアニメの話で盛り上がるなどと、明るく振る舞う様子がうかがわれる。葛西 りまがいわゆる「一軍」メンバーから外れたのちは、他の女子のメンバーは、葛西 りまに対して気遣う様子が見られ、[]教諭に席替えに関して意見を言うなど、嫌がらせ等に対して決して傍観的であったわけではない。

オ クラスとLINEグループ

生徒の中には、ゲーム機を使ってTwitterを利用している生徒、スマートフォンまたはタブレットを使ってTwitter、LINEを利用している生徒がいる。

生徒のSNS利用状況については家庭の方針により生徒によって異なるが、中学校に入学の前後にこれを利用するようになったものも少なからずいる。中学生活が始まるとまもなく、LINEを利用しているものの中で、クラスのLINEグループが作られている。実態は把握し切れていない。

LINEグループは部活動でも作られ、また、ごく親しい間でも作られている。さらに、クラス全員でのグループは限られた話題でのトークができなかったり、煩わしかったりすることから、クラスの中でさらに別にLINEグループもできている。

クラスでは、クラスの特定の者が別に「うらぐる」というグループを作っている（表の、誰でも入れるグループと異なる「裏グループ」の意と思われる。）。また、クラスに限らないメンバーとして、[]、葛西 りま、[]、[]のLINEグループもあったようである。また、女子バレーボール部1年生のLINEグループもあった。葛西 りまは、これらのグループに属していた。

また、LINEでのやりとりは、グループトークとして行われる他、個人のLINE上で、個々にトークが交わされる（生徒らは、これを「コチャ（＝個人チャット）」といている。）。また、LINEのタイムラインに書き込む形で、人に見える形で、あるいは範囲を限定する形で、やりとりがなされる場合もある。

カ 男子生徒との交際

中学校では、比較的一般的に、男子生徒と女子生徒が付き合うということが行われ、話題にされていた様子が認められる。付き合うということには、もちろん、実関係において真剣で親密な関係となる場合を含むが、それ以外の、LINEで友達になり、相互にトークを個人チャットとして親密に交わすようなことであっても、その関係は生徒たちのいう「付き合う」の範疇に入っており、SNSの手軽さと親密さから比較的手軽に、また短期間の中で、「付き合う」「別れる」の関係があった。

葛西 りまは、1年次6月中旬から後半にかけて、[]のことを[]に相談し、それが広まったことでトラブルになっている。そして、その後、1年次の7月[]日から[]週間、[]と付き合いたとされる。

8月には、クラスのLINEグループ上で、[]が葛西 りまが好きらしいということが話題にされている。

夏休み終了後の2学期、[]が葛西 りまと付き合い始めたとされる。この関係は比較的長く続き、10月には、葛西 りまが[]に好意を寄せていると[]が疑い別れ話になり、11月には、[]が嘘をついたことに端を発し、葛西 りまから別れ話が出るなどのやりとりがある。

この関係は、この直後の11月[]日に、[]が、部活動に専念するという理由で別れることを持ち出し、葛西 りまがこれに同意して解消されている。

なお、10月に、[]が、[]との[]の動画が流出した件で、学年会議で問題になっている。

また、2年次のことになるが、葛西 りまは、[]に好意を寄せるようになり、4月に[]と交際を始めるようになった。この関係は、6月8日に、葛西 りまが他校の生徒と性的関係を結んだとの突然の噂を原因として、[]からの申出により解消している。

7月には、葛西 りまは、2組の[]から付き合うことの申出を受けたが、これを断っている。

こうした付き合い、別れるといった関係は、他にもあり、例えば、[]は、1年次始めの頃すぐに[]と付き合い、時期は不明であるが、[]に振られたとの話がある。また、2年次のことであるが、[]は、下級生の[]と付き合い、その後別の[]と付き合いたとされる。その際、[]は、この[]を呼び出したことがあったとき

れる。しかし、[]は、すぐにこの生徒と別れ、その後、葛西 りまと付き合いようになったとのことである。

キ 関係の変化

葛西 りまは、入学当初、すぐに[]、[]、[]らと親しくなっているが、この関係はすぐに変化している。4月当初、[]が、容姿のことで、あだ名をつけられ、これについて、[]がタイムラインにこれを書き込んだ。これを通じて、[]は、[]、[]、そしてこの影響から男子にもこのあだ名でいわれるようになり、いづらくなるとともにこうしたグループから省かれるようになったとされる。その背景には、[]と[]の関係が悪くなったことがあったとの指摘もある。その際、[]と[]が小学校から仲がよかったこともあり、[]もタイムラインに悪口を書かれたとされる。この件は、保護者間、学校でも対応がなされ、これに直接関わったとされる[]、[]、[]、そして[]、[]との話し合いがなされ、この件は収束している（なお、この件について、[]、[]から相談を受けた担任の[]教諭が関係生徒を集めて対応しようとしたところ、[]から「あとはもう先生たちいらないよ」とされたとされているが、別途、保護者間での対応があったと思われる。）。

そして、次にあったのが、[]とこのグループの関係である。[]は、部活動（[]）のとき、[]から、飲み物をもらったことがあった。

[]は、葛西 りまと小学校が同じで、小学校の時代より、[]を含めて交流があり、[]とも知り合いであったことから、しばしばクラスにも顔を出していた。飲み物のやりとりは、[]の了解のことであったが、[]、葛西 りま、[]、[]のLINEグループの中で、[]のこの行動について、他の3人が非難めいたニュアンスで話題にし、他にも広めた。その結果、[]は、3人から1人にされることがあったり、そのことをTwitterで流されたり、[]でも、尾ひれのついた形で話題にされることとなり、[]は、部活にもいけなくなったことがあるとしている。[]は、これを機会に、このLINEグループを抜けている。

[]は、このグループから中体連（6月20日から22日にかけて実施）が終わるころまで省かれることとなった。この間、[]は[]など男子といることもあったとされるが、[]は、親のアドバイスも得ながら、個人宛のLINEトークで、言葉を選び、とにかく謝ることに徹し、その結果、[]が、6月半ばのあるときから、今まで何もなかったかのように話しかけてきて、よりを戻している。また、葛西 りまも、同時期、[]と話をするようになり、好意を抱いていた[]の件で、2人だけの間でということで、[]に相談を持ちかけるな

どした。ところが、この件では、その相談の翌日、学校に行くとその話が広がっており、「[]、[]と、ごけっこんおめでとうございます。」等と揶揄するメモが回されていた。葛西 りまは、これを[]が広めたと疑い、[]は、誰にもしゃべってないと説明したが、聞き入れられず、葛西 りまとの距離をとるようになった。

葛西 りまとこのグループの関係が悪くなったのは、葛西 りまが、[]や[]などに、体を寄せてくっついてきたり、たたくように触ったりする等、いわば距離感をとらずになれなれしくすることにあるとする生徒がいる。少なくとも[]は、こうした葛西 りまの態度をうっとうしく感じており、[]もこれに同意、同調し、葛西 りまがこうしたふるまいをやめないため、これに切れてケンカになったことがある。

また、[]、葛西 りま、[]は、一緒にトイレに行くなど仲は良さそうであるものの、葛西 りまが[]や[]をいじると両名は上手に返すのに、両名が葛西 りまをいじると葛西 りまが切れ気味に返してしまい、場が静まってしまうようなことがあったとする生徒もいる。

なお、[]は、こうした関係に直接関係なかったが、自身が[]から省かれていたこともあり、[]が省かれているときには、[]、葛西 りまと仲良くし、[]を省き、葛西 りまが省かれているときは、[]、[]に近づき、葛西 りまを省いたとされている。

こうした関係を背景として、このグループの中では、次第に、葛西 りまの日常の行動に目が行くようになっていった。例えば、国語の時間に、順に教科書を読んでいくときに、葛西 りまだけが小さな声で読むとし、これを指摘すると、指摘した生徒が、かえって、先生から注意を受けたことがあり、不満を募らせた。また、葛西 りまは男子と話すとき、女子と話すときと異なり、声のトーンを上げていたり、先生に話すときも取り繕っていたりしたため、「調子に乗っている」「ぶりっこ」という印象を持ったと述べる生徒があった。また、お互いの言い分や相手が言った言わないについてLINE上でのやりとりがあり、その食い違いが関係の悪化を増幅させた可能性もある。いずれにせよ、葛西 りまがこのグループにおいて、元の関係に戻ることはなかった。

ク グループ関係の変化とクラスでの人間関係

葛西 りまのグループでの人間関係が変化してくると、クラスの中でも関係が変化している。グループ内では、[]、[]と葛西 りまの関係が悪化することに始まっているが、[]が、[]、[]の側に立つことで葛西 りまは孤立している。

[]は、LINE上で葛西 りまの悪口を言い、葛西 りまと言ひ合いになっている様子が見られる（スクリーンショット）。葛西 りまが休

んでいるときなど、[]は、葛西 りまの机やイスを蹴って、「死ね」などと言っていたとされ（[]は、イライラして机またはイスを蹴ったところ、たまたま葛西 りまのそれであったとしている。）、むしろ省くことに積極的であったともされる。もっとも、[]も、[]や[]にちょっかいを出すため疎まれることがあり、その時には、今まで、葛西 りまに「死ね」などと言っていたにもかかわらず、葛西 りまと仲良くしようとしていたとされている。

また、[]との関係の悪化は、クラスでの関係にも影響している。[]が、[]と関係が悪化したときに同様のことがあり、その意味で、[]との関係の影響は大きいものと思われる。

6月頃と思われるが、国語の時間の音読も、グループからの指摘もあったが、グループ以外の生徒から、「ちゃんと読めよ」と指摘を受けている。また、葛西 りまを「おかめ」「美術の教科書の人」などと呼んだり、「あご」であるとか、「ごりま」という言い方もなされたりするなど、LINEなどで、葛西 りまのことを名前を出さずに話題にする際にこれらの呼称が使われている。

この頃、Twitter上で明日から葛西 りまをいじめる旨の書き込みがあったともされている。

上記の呼称は、[]や[]も悪口を言う際に普通に使うようになったとされるが、むしろ、[]、[]、[]、[]などが言っていたとの指摘もある。また、葛西 りまは、クラスで言われるとすぐ保健室に行っていたともされている。

2学期以降は、葛西 りまが休みがちになったことについて、[]が、「自分たちが学校に来ているのに、何で来ないのか」という趣旨の内容を非難めいて話題にし、これに同調するクラスの生徒が現れ、葛西 りまは孤立していったとされる。遅刻したときなどは、睨まれたり、ひそひそとささやかれたり、時に、「おっせー」「今来るの」などとあからさまに言われたりしていたとされる。そうした場合、葛西 りまは、下を向いてやり過ごしており、暗い表情であったが、弱音を吐くことはなかったとされている。

クラスのLINEグループでは、省くことが容易にできる（グループのメンバーであれば誰でも他のメンバーを退会させることができる）こともあり、その関係の変化ははっきりしている。

1年次の8月、葛西 りまは、クラスのLINEグループから退会させられ、退会後のトークの中であからさまな悪口が言われている様子が見られる。

なお、葛西 りまは、こうしたクラスでの関係が固定していく中で、[]、[]、[]、[]、[]等と一緒にいるようになったとされている。

(3) 女子バレーボール部の人間関係

ア 葛西 りまの女子バレーボール部への入部

葛西 りまは、部活動への入部に当たって、同じ[]小学校出身の[]に何部に入るか尋ねている。[]は、[]がバレーボールをやっていたこともあり、女子バレーボール部に入部することを伝えると、葛西 りまは、バスケットボール部と迷っていたようであるが、古舘春一の漫画でアニメ化もされた「ハイキュー!!」(平成26年にMBS・TBS系で放送)を見て女子バレーボール部もいいと思っていたとして入部を決めている。

イ 女子バレーボール部について

平成27年の女子バレーボール部には、葛西 りまを含めて15名の新入部員が入部した。中学校には、男子バレーボール部はなく、女子バレーボール部だけである。3年生が7名、2年生が8名であり、1年生が多数を占めることとなったが、急に新入部員が増えたのは、「ハイキュー!!」の影響が大きいものとみられる。小学校出身別で見ると、[](1年[]組/2年[]組。以下、1年、2年の表記を省略し、組のみ示す。)、[]([]組/[]組)、[]([]組/[]組)、[]([]組/[]組)、[]([]組/[]組)、[]([]組/[]組)、[]([]組/[]組)の7名が[]小学校、[]([]組/[]組)、[]([]組/[]組)、[]([]組/[]組)の3名が[]小学校出身、[]([]組/[]組)、葛西 りま([]組/[]組)、[]([]組/[]組)の3名が[]小学校、[]([]組/[]組)、[]([]組/[]組)の2名が[]小学校出身である(なお、[]と[]はのちに退部している。)

[]は、[]の[]教諭であり、平成[]年に女子バレーボール部[]になっている。生徒の話としては、気に入らない生徒への態度ははっきりしており、また、生徒間の問題には立ち入ることはあまりしなかったとされる。

部活動は、2年生が1年生を教える形で、ネットを張ることから始まり、その間、3年生は、パスの練習を行うなどしていた。準備が整ったあとは、全体でストレッチを行い、ランニングをして、ダッシュなどのトレーニングを行うなどした。その後、2人ずつ組になり、バレーボールになれていない生徒が多かったこともあり、バレーボールでのキャッチボールからはじめ、オーバーパス、アンダーパス、アタックとレシーブの練習を行う等というのがルーティンのメニューとのことである。ペアでの練習の際のペアについて特に決まりはなく、気のあった者同士がペアを組むことが多く、[]と[]、[]と[]がペアを組むことが多かったとされる。

練習の最後は片付けになるが、下級生が担当しており、ネットを片付ける、

ボールを片付ける、床にモップをかける、モップをはたいてほうきでゴミを集める等が行われた。顧問としては、みんなで均等に役割を回してやるようにと指示したとのことであるが、いつの間にか役割は固定されていたとされる。仲のよいもの同士のグループの優劣はそれほどなかったとされるが、■■■■がいつも同じ（皆から見ると楽な）作業を行っており、ずるいとの指摘を受けたこともあったとされる。ただし、■■■■の言動により部活動の雰囲気が決まるということとはなかったとされる。

技能的に高かったのは、■■■■、■■■■であったとされ、特に■■■■は、3年生引退後の新チームによる新人戦のおりに、■■■■に入っている。

ウ 女子バレーボール部の活動について

部活動のサイクルとしては、毎年6月の青森市中学校体育大会夏季大会（以下、「市中体連夏季大会という。」）までは3年生中心に部活動がなされ、その後、3年生が引退し、7月から2年生を主体としてチーム作りがなされる。新チームとして出場するのが9月に行われる市の新人戦（市中体連秋季大会）であるが、それに先だって、市の各中学校の実力を測るために、毎年、ねぶたが終わってからお盆休みまでの間に、強化練習会が開かれる。その後は、11月に市内の中学校に東青管内の中学校を加えて行われる新人大会（青森市中学校新人女子バレーボール選手権大会）、翌年度の4月の春の大会（青森市中学校春季女子バレーボール選手権大会）が行われ、6月の夏の大会（市中体連夏季大会）となり、1年間のサイクルが終わる¹。

平成27年度の夏の強化練習会は、8月8日（1セットマッチのリーグ戦）と9日（3セットマッチのトーナメント戦）の2日間、行われることが予定されていたが、■■■■に■■年生の■■■■が起用され、■■■■に■■年生の■■■■が起用された。そして、レギュラーメンバー12人には、2年生の7人（■■■■、■■■■、■■■■、■■■■、■■■■、■■■■、■■■■以上、■■■■。以下も同じ。）の他、1年生では、■■■■、■■■■、■■■■、■■■■、葛西りまの5名が起用され、それぞれ、■■番から■■番までの背番号が与えられた。

¹ 女子バレーボール部は、それほど強くはなく、平成27年度の青森市中学校春季女子バレーボール大会（平成27年4月25日～27日）では、1回戦で敗退している。このとき1位になったのは、女子では、甲田中学校、男子では、筒井中学校である。なお、筒井中学校は、女子バレーボール部もあり、準々決勝まで勝ち残っている。

その後、市中体連夏季大会（平成27年6月20日～22日）では、男子は筒井中学校、女子は甲田中学校が1位になり、メンバーが入れ替わる青森市中学校体育大会秋季大会（平成27年9月19日～20日）では、男子では青森東中学校（筒井中学校は2回戦敗退）、女子では青森西中学校（甲田中学校は1回戦敗退）が1位になり、浪岡中学校女子バレーボール部は1回戦で敗退している。その後、平成27年11月14日～15日の日程で、青森市中学校新人女子バレーボール選手権大会が開催され、同じく男子は青森東中学校、女子では青森西中学校が1位になり、浪岡中学校の女子バレーボール部は1回戦で敗退している。

その後、9月の秋季大会および11月の新人選手権大会では、葛西 りまと交代して[]が起用され、平成28年度では、春季選手権大会、市中体連夏季大会において、新[]年生が、[]を[]として、8名（上記メンバーに加えて、[]）となり、新[]年生は、[]、[]、[]、[]が起用されている。なお、[]は、引き続き[]が務めている。なお、葛西 りまは、1年次の11月に女子バレーボール部を辞め、美術工芸部に転部している。

平成28年度、3年生引退ののちは、[]が[]となった。部活動においてエースであった[]が[]になることが期待されていたが、固辞したため、[]の一人でパワフルで声も出す[]が務めることとなったという経緯がある。そして、[]に1年生、2年生10名（[]、[]、[]、[]、[]、[]、[]、[]、[]、[]）、1年生2名をレギュラーメンバーとして、8月6日～8月7日の平成28年度の強化練習会に出場した。（葛西 りま死亡後の）秋季選手権大会（9月17日～9月18日）では、[]が[]となり、2年生8名（[]、[]、[]、[]、[]、[]、[]、[]）と1年生3名がレギュラーメンバーとして出場した。

エ 女子バレーボール部の人間関係

平成27年度の1年生の中では、[]小学校出身者が多数を占めており、中でも[]、[]、[]、[]がよく一緒におり、加えて[]と[]が出身小学校は異なるが仲良くしており、この6人と、さらに[]が一緒にいたとされる。

また、[]小学校出身の[]と[]が（互いに泊まりに行くなど）特に仲がよく、[]小学校出身の[]と[]がよく一緒にいたとされる。

葛西 りまは、[]小学校出身の[]と普通に話をしたとされる。葛西 りまは、[]と仲がよかったとの話もある。ただし、こうした関係はあるものの、[]と[]を除くと明確なグループはなく、13名は出身小学校にかかわらず仲がよかったとされる。2人は、部活動においても共に行動をしており、他のメンバーが集まってしゃべっていると、自分たちの悪口を言っているのではないかと言ってくるのがしばしばあったとされる。ただし、一方が休むと1人になることはなく、他のメンバーと一緒に行動していたとされる。この2人に、話の内容によっては、[]が加わることがあったとされる。

なお、[]は、パワフルな感じで、明るく雰囲気をよくするときもあるが、やり過ぎ、しばしば度が過ぎることがあったとされる。

女子バレーボール部には、同じ学年のLINEグループがあり、LINE

を使えない生徒以外は参加していたとされる。メンバーとしては、
、
、
、
、
、葛西 りま、
、
が入っていたとされる。
、
が、参加者なら誰でも見られるところに、何でも、すぐに書き込むことに不快の念を頂いていた生徒もいる。

葛西 りまは、女子バレーボール部の多数生徒との間において特に確執はなく、平成27年8月のクラスのLINEグループのトークで、女子バレーボール部員全員に嫌われている旨の書き込みがなされているが、葛西 りまが女子バレーボール部全員に嫌われていたとの事実は確認できない。

オ 強化練習会での背番号の授与と関係の変化

夏の強化練習会に向けての新チーム編成は、とりわけ新入の1年生にとっては、2年生に混ざってレギュラーメンバーに入れるかの関心事であるが、中学校では、ベンチに入るメンバーとして、
が、背番号を配布するという形でこれを発表していた。
の
教諭によると、この時期、2年生の技能が勝っていることから、1年生は、
、
以外は、基本的にベンチで盛り上げられることを念頭に、上記のメンバーを選んだとされる。葛西 りまは、練習でもよく声を出す生徒として目立っており、このメンバーに選ばれている。ただし、こうした選考基準について、生徒には伝えられておらず、生徒は、上手な順に背番号が渡されると理解していた。

葛西 りまは、手踊りの活動を日常的に行っており、週末もこれに参加することから、部活動を休みがちであったともされる。このときに背番号を顧問から渡されることは生徒にとってはうれしいことでもあり、そうした中、部活動を休みがちな葛西 りまに背番号が渡されたことに反発もあったとの話もあるが、他方で、葛西 りまは、それなりにバレーボールも上手であり、特段、部員の中で、それに対して反感を持ってはいなかったともされている。

ただし、これに対して、
と
が、「あり得ない」ということを、ひそひそとしかし聞こえるように言っていたのを聞いた生徒がいる。

もそこに加わったとされる。
と
が葛西 りまに対して、何かにつけ指摘するようになったのはこのときが始まりであったともされている。2人の言動に同調する生徒もいたともされるが、いずれにせよ、2人の言動は、他の部員にとっては心地のよいものではなかったとされている。

カ 美術工芸部への移籍

葛西 りまは、2学期に入ると、体調不良を理由として、部活動を遅刻したり、早退したり、休んだりすることが多くなったとされる。

新人戦が行われた9月に、起立性調節障害の診断を受けており、これは

■の■教諭にも伝えられた。■教諭は、「練習を休むのも仕方がなくなってくるな」と感じたとしている。

葛西 りまの起立性調節障害については、部員に知らされることはなかったが、他方で、■教諭としては、葛西 りまが部活動に来れば、皆と一緒に練習している様子が見られ、葛西 りまが休みがちなことについて確執のようなものはなかったと認識していた。もっとも実際には、休みがちことを責める状況が生じていたものであり、この点は、後述の第2-3(1)ウ(イ) b(c)で詳述する。

10月に入ると、さらに部活動を休むことが多くなり、葛西 りまから■教諭に対し、体調が悪いのでしばらく休むとの申出もあったとされる。部活動に来られていない様子に、転部を勧めてみたらどうかとの■の■教諭からの話もあり、■教諭は、葛西 りまに対し、「あまり来られないのであれば、体調的に無理であれば、別の部活動の方がよいのではないかと」勧めた。これに対して、葛西 りまは、「そうかな」という表情で受けとめていたとされる。

女子バレーボール部では、10月の文化祭後の時期、生徒たちでデザインを選んだウィンドブレーカーを作ることとしており、■教諭は、部活動を休んでいた葛西 りまに対しても、ウィンドブレーカーの話をし、買うかどうかを尋ねている。これに対して、葛西 りまは、ウィンドブレーカーの上着だけ買うとして注文をしたが、その直後の11月の終わりから12月の初めの頃、退部の申出があり、その後、美術工芸部に転部している(なぜ、美術工芸部であったかは必ずしも明らかではないが、影響力のあるグループ以外のメンバーに美術工芸部が多かったのも理由と考えられる。)

(4) 2年次の人間関係

ア 2年次のクラス編制とクラスの概要

葛西 りまは、2年次は4組に所属した。■は■教諭である。

2年生のクラス編制に当たっては、特定の生徒と同じクラスにしないではしいとの複数の要望が生徒の保護者から出されていた。葛西 りまについても、1年次に、保護者から要望が出されていたが、それとは別に、教員の側でも■、■、■とはクラスを分ける必要があると感じ、その方針が立てられていた。クラス編制に当たっては、他の考慮要素は多数存在していたが、葛西 りまについて言えば、■と学校の日常生活上、動線においてトイレ等が重ならないような配慮がなされ、葛西 りまは4組に、■は■組、さらに■は■組、■は■組とされている。校舎の配置上、■組と■組の間には、教材室があり、廊下は共通するものの空間的には、これを挟んで逆の動線になることが期待されている。

1年3組から2年4組に所属することとなった生徒としては、葛西 りまのほか、■、■、■、■、■、

がいた。なお、この時点で、葛西 りまは女子バレーボール部から美術工芸部に転部しているが、女子バレーボール部のメンバーとしては、
、
、
、
がおり、美術工芸部はいない。小学校出身者には、葛西 りまの他、
、
がいた。なお、
で一緒であった
も
組である。

また、同じ部活動のメンバーが多く、女子バレーボール部の上記5名の他、ソフトテニス部は、男子3名、女子3名、バスケットボール部は、男子4名、バドミントン部男子3名、陸上部3名などである。

イ クラス組織と人間関係

2年4組の学級役員は、
に
、
に
と
、
に
、
に
と
がそれぞれなっている。

1年次と同じように、学習係、生活係、集会係、整美係、広報係、保健給食係があり、生徒の希望により、それぞれについて、4～6名を決めている。

これに基づいて、
の
教諭は、4月12日に、係がうまく均等に配置されるように、男女比も考慮に入れ、例えば、1班は、学習係は男子、生活係は女子、集会係は女子、整美係は男子、広報係は男子、保健給食係は男子といった具合に枠を指示し、生徒の話し合いで班を決めさせ、席を決定している。

葛西 りまは、集会係になり、廊下側前方の班で、廊下から2列目前から2番目の席に席が決められ、同じ班では、廊下側前より、
(学習係)、
(保健給食係)、
(広報係)、2列目前には
(生活係)がいた。

因みに、廊下側後方の班は、廊下側より、
(整美係)、
(保健給食係)、葛西 りまの後ろの席になるが、廊下から2列目に、
(学習係)、
(生活係)、
(広報係)が、中央前方の班は、廊下側から、
(広報係)、葛西 りまの左隣に位置する
(生活係)、
(保健給食係)、4列目前の
(学習係)、
(整美係)、
(集会係)が、中央後方の班は、廊下から3列目に、
(集会係)、
(広報係)、
(学習係)、4列目に
(保健給食係)、
(生活係)、
(学習係)が、窓側前方の班は、廊下側5列目に
(集会係)、
(保健給食係)、
(広報係)が、窓側の列に
(学習係)、
(整美係)、
(生活係)が、窓側後方の班は、廊下から5列目に、
(集会係)、
(学習係)、
(保健給食係)、窓側の列に、
(整美係)、
(広報係)がいた。

日の入学式当日以降は毎日登校し、順調な学校生活のスタートを切った。

中学校は、浪岡地区の6つの小学校のうち5校から生徒が集まっており、各小学校は1学年1クラスまたは2クラスであったことから、同じ小学校出身者であれば、互いに見知っているほか、上記第2-2のとおり、学校を越えての交流もあり、入学時点で、小学校は異なっても友人関係にあった生徒もいる。

葛西 りまは、こうした関係もあり、また座席の前後などもあり、クラスにおいては、[]、[]、[]らと仲良くなった。このメンバーは、クラスの中でも雰囲気を作るメンバーで、[]、[]、[]、[]、[]など、男子生徒で目立つ生徒らが同調し、クラスの雰囲気を作っていた。葛西 りまは、クラスの中で目立つ[]らとより良い関係となるようふるまい、小学校時代より行っていた[]で親しい[]、[]より、むしろ[]らというようになった。

葛西 りまは、中学校生活のスタートにおいて積極的に頑張る様子が見られ、クラスの学級役員である副会長に立候補し、さらに、クラスの会長の中で就任するのが通例となっていた学年会長も引き受けることとなった。このときの思いを、4月10日の「やまなみ」に「会長になって、とても責任重大なので、10月までがんばろうと思います。」と記載した。

また、葛西 りまは、第2-2でも記載の通り、[]とも話し、アニメの影響もあって、部活は女子バレーボール部に入部している。4月26日には母親とバレーボールの道具（ボール、プロテクター、靴下）を買いに行き、すごく喜んで、「頑張るから」と述べていた。4月27日の「やまなみ」に「今日は部活動そしき会でした。楽しみにしていたので、つらくても3年間頑張っていこうと思います。」と前向きな記載をし、[]教諭の「good!」とのコメントが記載されている。「部活動でがんばりたいこと」と題するメモにも「私の抱負」として「先生や先輩い話をしっかりきいて、少しでも上手にできるように頑張る。足でまといにならないようにしっかり練習する。」と記載し、最後に大きな字で、「あきらめない!!」とも記載した。

その後、5月も葛西 りまの出席状況は良好で、欠席は1日のみであり、足痛により保健室を1回利用したのみであった。また、5月の連休後に行われた宿泊研修で、葛西 りまは学年会長として、皆の前で研修のねらいに沿った話をする事ができたとされている。

また、この頃も、[]、葛西 りま、[]等は仲のいいグループとみられていた。もっとも、「やまなみ」には、「今日は部活のあと手踊り直行でくそねむいです。たおれそうです。勉強があるのでがんばります。」

(5月12日)、「今日も手踊り直行でした。またくっそねむいです。私が倒れるのはいつでしょうか。。。」(5月13日)など、部活、手踊り、勉強を全て頑張ることに疲れを示すような記載がみられるようになる。また、中間テストで目標の355点をとれるか不安(5月20日)、「300点いったかは

あやういです。」(5月21日)など、勉強に関する記載もみられた。

b クラスにおける関係の変化

入学当初、[]、[]、葛西 りま、[]は仲のいいグループとみられていたが、この関係はすぐに変化した。第2—2(2)キで述べたとおり、4月下旬、まず[]が、容姿のことを揶揄するタイムライン上の書き込みをきっかけに、[]、[]、さらに、[]らに同調する男子からも悪口を言われるようになり、居づらくなり、省かれた。クラスは異なるが、上述のとおり[]と仲の良かった[]も悪口を言われている。

これが収束する頃、[]が、部活動・[]での出来事を取り上げられ、自らが入っていたLINEグループ(他のメンバーは葛西 りま、[]、[])で悪くいわれるようになった。これが、[]でも話題にされ、[]は、クラス、部活動共に行きづらくなり、省かれた。[]は、LINEでとにかく謝る対応を続けたところ、あるときから[]が普通に話しかけてくるようになり、6月半ばの中体連の頃、よりを戻すこととなった。

[]が、[]とよりを戻した頃、葛西 りまともまた話をするようになった。ところがその直後、葛西 りまが[]に対し誰にも言わないでと述べた上で行った男性生徒に関する相談が翌日学校に筒抜けになっており、「くそしねカッス/氏名 [] だんな [] ごけっこんおめでとうございます。」「お前 []」などと記載された2枚のメモを目にし、これを入手している。[]は自分が話を漏らしたのではないと述べたが、葛西 りまには信じてもらえず、2人の関係が悪化した。

[]は、葛西 りまと合わないと思うようになっていたところ、葛西 りまが、体を寄せてくっついてきたり、たたくように触る等、いわば距離感をとらずになれなれしくしてきたため、葛西 りまと喧嘩になったとされる。

[]は、上記のことで葛西 りまと距離をとるようになっており、また、葛西 りまの態度に対して[]に共感しており、[]と[]は、葛西 りまと距離をとるようになった(つまなくなった)。また、[]は、自身が省かれていたこともあり、[]に同調した行動をとるようになった。なお、こうした関係は解消されることはなかった。

c 葛西 りまの「省き」と陰口

こうした中で、3名は、葛西 りまについて、うざい、きもいなど陰口を言うようになった。もともと、上記のとおり、[]にとって葛西 りまの態度はなれなれしい、うっとうしいと思えるものであり、その感覚が

と共鳴し、その態度を「うざい」「きもい」と言い合うようになったものと思われる。は、自身ではそのように思っておらず、から指示されたわけでもないが、4月に、らから省かれた経験から、自分が省かれたくなくて、同じように言ってしまったものと思われる。

5月初めまでは、葛西 りまはクラス内の関係性において良好であったとみられていたが、5月30日に行われた運動会では、葛西 りまがリーダーとして前に出たがうまくいかなかったとの指摘がある。また、運動会のあるころまではがらから省かれていて、その後、葛西 りまにターゲットが移り、省かれるようになったとの複数の生徒からの指摘がある。

また、葛西 りまは、6月21日（日）、東京のNHKホールで開催された全国手踊りの企画に参加し、翌22日に帰宅した。その後、数日以内に、母親に対し、「・・」の3人から突然無視されるようになった」「3名はその理由を言わず、自分でも理由は分からない」と話した。そのときの葛西 りまの様子は、切羽詰まって、とか、怒って、というのではなく、突然なんでだろうと不可解に思う様子であり、母親としても、6月の中旬ころまではこの3人とも普通に楽しそうにしている、「東京に行ったときにお土産買っていくんだ」と言っていたりしたので、なぜ急に、という思いを抱いたとのことである。

これらのことからすると、らが葛西 りまとつるまなくなり陰口を言うようになったのは、6月に入ってから、母親への相談に至るまでの間であったと考えられる。

また、こうした女子同士の関係性の変化と雰囲気、クラスの男子の中心的メンバーであるらも感じ取り、これに沿うように行動し、葛西 りまを省くことに加担するようになった。

d いじめの宣言、あだ名、悪口・暴言、いやがらせ

(a) いじめの宣言

あるとき、が明日から葛西 りまをいじめる旨の書込みをTwitter上で行ったとの話がある。これについては、書込みそのものが残されておらず、はこれを否定している。

ただ、（3年組）は、前述のとおり、6月22日から数日以内に葛西 りまが母親に「ら3名から突然無視されるようになった」という話をした際、そばでその話を聞いており、それからそれほど間をおかずに、友人である（3年組）からこのTwitterの書込みを見せられ、そのことを両親と葛西 りまに伝えており、さらに友人らと葛西 りまの教室を見に行っただもしている。

こうした具体的に語られている内容から判断すると、のTwitterの書込みがあったことはほぼ間違いはなく、また、書込みがされたのは6月下旬ころのことと思われる。

■の名前を嫌がらせのように大声で連呼するなどの「いじり」がなされた。参観日に茶化されたことがあるとの話もあった。

■に対しても同様の「いじり」がなされ、それを■が「■」などと本気で嫌がる様子も見受けられた。■は、後述のとおり、■が3組のLINEグループから葛西りまを退会させた後のやり取りで、「クソワロタ」「■」「■」と投稿している。

なお、夏休み中の8月の初旬頃になるが、葛西りまは■組の■と付き合うこととなった。■は■と同じバスケットボール部で、■に対しても物が言える立場であり、葛西りまが■から悪口を言われていることを認識していたため、■に対して葛西りまをいじめるなど述べたとされる。

(ウ) 葛西りまの様子

6月の後半、葛西りまは、母親に対して、戸惑いとともに無視されるようになったと口にした頃、「省き」と陰口、やがてあだ名、すれ違いざまの言葉かけが始まっていくが、このころの葛西りまの様子としては、体の変調を来している。4月、5月を通じて1回だけであった欠席が、6月になると4日となり（いずれも体調不良が理由とされている。）、頭痛による保健室利用も2回あった。

「やまなみ」にも、発熱があった旨の記載や、「いつにも増してねむい」「めっちゃ頭がいたい」といった記載がみられている。一方、「やまなみ」には、勉強面についても、期末テストの点について「350点いった気がしない」と不安に思う記載がされていた。

このころ、葛西りまは、■にLINEで「授業中とかにいじめられている」と送り、「大丈夫？」と返した■に対し、■のことや学級でのことなどを相談した。葛西りまと■は色々とLINEでやり取りしたが、最終的には葛西りまが「大丈夫」と述べたとのことであった。

7月に入ると、体調不良により3日欠席し、頭痛により保健室を2回利用した（うち1回は午前中に早退した）。

7月1日には、「やまなみ」に「今日はなんでか分かりませんが、とってもイライラして気がおさまりません。そして眠いです」と記載し、これに対して■教諭が「眠いからイライラするんだと思います・・・」とコメントすると、「ちがいます」とさらに記載している（筆跡から、おそらく葛西りまが記載したものと思われる。）。

また、終業式が行われた7月21日、葛西りまは、朝から体調不良により保健室で休養し、午後の終業式に出ている。保健室の質問カードに「■、■、■の3人から幼稚な嫌がらせを最近されている。」「先生にいうと、ちくったと思われて、さらにエスカレートするかもしれない。三者

面談で■■■■先生からそれとなく聞かれたら、安心して話せると思う。」と不安な様子を見せる一方で、葛西りまは、1学期終了時に作成したと思われる「1学期の反省」と題する書面において、「自ら進んで学校行事に参加している」「部活動（校外活動）に積極的に参加している」に「頑張った」のA評価をつけ、「今学期に点数をつけると100点満点中95点」「学年生徒会の仕事と部活動」を今学期一番頑張った、と記載し、気丈な様子も示している。

イ 夏休みの出来事と葛西りまの様子

(ア) 夏休みについて

7月21日、終業式が行われ、翌22日から夏休みに入った。7月22日、23日、24日及び27日、三者面談が全学年で行われている。夏休み、部活動は継続している。葛西りまは、手踊りの会に入っており、夏休みは多くのイベントが予定されていた。

(イ) 悪口のスクリーンショットへの保存

夏休みの7月22日、■■■■は、1学期の出来事ではあるが、LINEに「学年会長なのに授業中寝るとかクソワロタ／人の悪口かけて（ママ）いうなし きもい」と投稿した（これにスタンプを送った者が4名ある。）。■■■■は投稿の1分後にこれを削除したが、その後葛西りまが反応している。「びびって消したの？消すの早すぎwww」「見ちゃったからねー」とLINEを送ると、「みれば？」「びびってねーし」などと葛西りまにLINEを送り、その後、両者の間で下記のようなやり取りが行われた。

経緯からすると、■■■■は書き込みの後、LINEグループに葛西りまがいることに気づき、慌ててこれを消し、それを偶然目にした葛西りまと言い合いになったものと思われる。■■■■としては、見つかってしまったというばつの悪さがあったと思われるが、開き直った形のやりとりとなっている。

葛西りまは、姉の助言により、この頃から自らを傷つける内容のLINEのやり取り等をスクリーンショットで保存するようになっており、その最初のものと思われる。やり取りもスクリーンショットで残されていた。

■■■■：みれば？／びびってねーし／だれがびびんだよ／くそ／クソブリオカメ

葛西りま：いわれなくても見ちゃってるし目障りwてかびびってるから消したんでしょ？ なにその単語 ばっかっぽいね

(略)

■■■■：お前さ、顎ですぎだよ？www整形したら？みんなから苦手って言われてんのにみんなにベタベタしてキモスだわ

葛西 りま；お前に指図される筋合いないんだけどな一美人に言われるならまだしもお前だしw お前と皆一緒にしないで皆が可哀想でしょ

；お前なんなの？お姉ちゃんいるからってちょーしのんなじゃよ

お姉ちゃんもイジメらしちゃんだべ？だせな！wwwま、姉妹そろってき・ら・わ・れ・て・る♡www

葛西 りま；お姉ちゃんのことまで言っちゃうかw わかんね一癖に言うなよwこれお姉ちゃんにみせたからね

；で？/さいならって行ってんじゃん

葛西 りま；わかんないならいーよwお前が勝手にいってるだけだろw嫌なら無視しとけよw

；は、クラスから早くいなくなれば？みんな腐る前に！

葛西 りま；皆とお前一緒にするなってw 物理的に腐るのはありえないよー？

；んで？オカメ黙ってる！黙って美術の教科書に入ってるー

葛西 りま；えー！！なにそれ！？やばーい！美術の教科書に入れるのはじめて知ったーくだらない悪口？w

；はー？うざ きもすだわー

学年会長になんよ だってお前の声聞いて吐き気してたぞー

(略)

；オカメといっしょにされたくないのだからー

このやりとりの中で、「クソブリオカメ」「顎ですぎ」「オカメ」「美術の教科書に入ってる」などと らが言うようになったあだ名や隠語が、葛西 りまに対する攻撃の文脈で用いられている。

また、後述の女子バレーボール部の強化練習会の選手として選ばれる前ころ、葛西 りまが、ボールを入れるカゴの側に立っている にぶつけるように真顔でボールを投げてくる様子があった。 は葛西 りまからクラスで色々問題があると聞いており、 にLINEでお姉ちゃんいるからって調子に乗るなどかブスとか言われているのを見せられてもいたので、そのことでイライラしているのかと受け止めたとしている。

LINEのやり取りを葛西 りまが に見せたのは、強化試合のユニフォームをもらった日、一緒に の家に帰って遊んでいたときのものであり、内容や時期から、この時、 が見せられたのは と葛西 りまとの間で7月22日になされた上記のLINEのやり取りではないかと思われる。その際、 が大丈夫なのと聞くと、大丈夫、と答えたとのことであった。

(ウ) 老人ホームでの出来事

夏休みに入ると、手踊りの会で、踊りを地域で披露する機会が増える。7月25日、特別養護老人ホーム■■■■の夏祭りに、■■■■、■■■■、■■■■、葛西 りまが手踊りを披露するため参加した。その際、■■■■が■■■■と共に、出番を待つ葛西 りまらのところにやってきて、■■■■と■■■■にだけ頑張ると声をかけ、葛西 りまに対しては睨み、こそこそ何かを話しながら戻っていくということがあった。

これについては、葛西 りまの母親のほか、現場に居合わせた保護者の一人も現認し、「あからさまな態度であった」と述べている。そして、これに対して、母親が「お母さん言うてくるよ」と、直接2人を注意する旨、葛西 りまに持ち掛けたところ、よけいうるさくなるだけだからと制止されたとしている。

また、手踊りに参加した他の子どもたちも、「りまにだけ手振んなかったね」「『■■■■ちゃん、■■■■ちゃんバイバイ』とやってるのにりまの友達ではないの？」と不審に思って述べるような状況であったとのことである。

(エ) 女子バレーボール部での出来事

女子バレーボール部では、1学期を終えると、2年生を中心とした新しい体制を編成する。秋の新人戦に向けて、市内の中学校が交流し相互の力を測る強化練習会が開催されており、平成27年は、8月6日、7日の両日、これが行われた。

女子バレーボール部は、2年生が8名、1年生が15名と、1年生が圧倒的に多く、ベンチ入りするメンバー12名に対して、2年生が少なかったことから、残りの人数は、1年生が起用されることとなった。

このメンバーは、■■■■の■■■■教諭が選び、背番号を授与するというかたちで選ばれた。前述のとおり、葛西 りまは、このメンバーに選ばれた。このとき1年生で選ばれたのは葛西 りまを入れて5名(■■■■、■■■■、■■■■、■■■■、■■■■)。別途、■■■■が■■■■として選ばれている。)であり、これに対して、■■■■及び■■■■が、練習にあまり来ていない葛西 りまが選ばれるのは有り得ない、と聞えよがしに述べていたとされる。

この頃から、葛西 りまは、女子バレーボール部内でも悪口を言われるようになり、アイプチに由来するあだ名(「アイプチ」ちゃん、「アイプチ野郎」などが挙げられている)、「ぶりっ子」「おかめ納豆」などの、葛西 りまがいやがるあだ名で呼ばれるようになった。葛西 りまは、バレーボールの試合や練習会の時もアイプチを付けて来ていて、■■■■がだめなんじゃないのと指摘をすると取るのを忘れたなどと述べていた、との話がある。「アイプチ」を揶揄する悪口を最初に言ったのは■■■■であり、■■■■と仲の良かった■■■■や、■■■■も、こうしたあだ名を使って葛西 りまの悪口を言うようになった。

(オ) 3組LINEグループからの退会

8月12日、3組のLINEグループにおいて、葛西りまもグループメンバーである中、以下のやり取りがなされた。[]の最初の書込みを見ると、葛西りまが8月11日に学校を休んだのに12日にプールに行ったので、学校をさぼっておいて遊びに行くなんて、と責めている文脈ととれる。この点、確かに8月11日は出校日であり葛西りまは欠席したが、「やまなみ」によるとこの日葛西りまは37.7℃の発熱があったとのことであった。寝る前には下がったとのことであり、翌12日に友達とプールに行ったのも事実ではあった。

[] ; 昨日休んだのに、今日プールに行った人いるらしいよ！3組に！

[] ; え？だれ？www

[] ; []

[] ; 美術の教科書に載ってる人

[] ; あ、そっちなww

[] ; そっちそっち／おかしいよね～死んで欲しい

[] ; 学校来ないのにね。てか、宿題多くなるだけだよ

[] ; []、そいつの事好きなの？w

[] ; きいてみ／多分ってか、絶対ちがうってゆーがら

[] ; なんか、自分で言ったらしいよ／ある人から聞いたw

[] ; は？りま？[]？

[] ; ちょ、wwwwww／名前出すなって

[] ; あ、んだ・・・／今のは、無かった事に

[] ; 退会させるか

[] ; 美術の教科書の人で／それしかなくない？

[] ; おけ／じゃあね

ここまでのやり取りにおいて葛西りまは一切言い返すなどしておらず、[]が3組のLINEグループから葛西りまを退会させた。そして、さらに以下のやり取りがなされている。この退会後のやり取りについて、これに加わったメンバーは葛西りまが見ていないものと思っていたとしているが、葛西りまは、おそらくメンバーの誰かから提供を受けて、スマートフォンにスクリーンショットを残している。

[] ; クソワロタ

[] ; さよーならー

[] ; わらわらわらわら／わらうしかなーいww／きれる？かな？ww

[] ; きれたとしても

■■■■■ ; どんでもいい

■■■■■ ; そらな

(略)

■■■■■ ; バレー下手なくせに、でしゃばってるから、バレー部全員に嫌われじゃーし

(略)

■■■■■ ; ■■■■■

■■■■■ ; てか、結局アイツって人に頼ってばっかの類人猿だから、バレーも下手だろーし、■■■■■と一緒に楽しーとか言ってたけど、結局このザマw / しゃくれゴリラ

(略)

■■■■■ ; 出校日これなかったのは、動物園での取引の講習会があったからだと思いまーすw by ゴリラ担当飼育委員

(略)

■■■■■ ; 好きなわけねえだろ！プロ削除したし■■■■■ ; だよねwww

(略)

■■■■■ ; あいつ / 自分でできねーから / お姉ちゃんに言ってなんかしてもらってんだよ / 弱っ

■■■■■ ; あ、それ聞いたことあるよ

このやりとりについて、葛西 りまは、■■■■■の書き込みに強く反応し、その直後、教室で、■■■■■のノートを取り上げ、「あんたなんかクラスメイトとも思わない」と言って、そのノートを放り投げたとされている。なお、この頃、葛西 りまは、ネット上で「ゴリマ」と言われている。これは、「ゴリラ」と葛西 りまの名前（「りま」）をかけて付けられたものと思われる。このあだ名についても誰が付けたのかは確定できないものの、時期としては、8月12日になされた上記のLINEのやり取りの中に「しゃくれゴリラ」、ゴリラから派生したものと思われる「類人猿」などゴリラにちなんだ呼称の記載があり（「しゃくれ」は顎に関する揶揄と思われ、前述の「あご」のあだ名とミックスさせたものが「しゃくれゴリラ」の呼称と思われる。）、遅くともこのころまでには既に言われ始めていたものであるといえる。

(カ) ■■■■■の謝罪

■■■■■は8月3日、「■■■■■」と葛西 りまにLINEを送り、謝罪したが、葛西 りまはこれを受け入れなかった。

この時期、■■■■■自身、■■■■■組の■■■■■、■■■■■らとうまくい

かないという背景があったようである。前項の3組のLINEグループのやり取りで、[]が最初に「[]」「[]」と書きこんでいるのは[]のことと思われるし、退会後のやり取りでも[]が「[]」と書き込んでいる。

この時期、[]はもともと仲の良かった[]ともうまくいっていなかったようで、8月13日に葛西りまがスクリーンショットを残した女子バレーボール部のLINEグループのやり取りにおいて、[]が「[]」と呼びかけ、[]と[]がこれに呼応し、[]がさらに「[]」「[]」と書き込むと、[]が「[]」「[]」などと返している。

なお、こうした謝罪は、2学期になっても繰り返されている。[]は、10月30日、LINEで葛西りまに「[]」「[]」と送り、さらに11月10日、LINEで葛西りまに「[]」「[]」などと謝罪しているが、葛西りまはやはりこれを受け入れなかった。また、こうした書き込みに対して、[]はこのやり取りの後に「や、さんざんいじめといてそれはないっしょ」と書き込んでいる。

ウ 2学期の出来事と葛西りまの様子

(ア) 2学期について

8月25日、2学期が始まった。翌々日の27日には、休業中の成果を確認する休み明けテストが行われ、あわせて、生徒に向けてのいじめ防止の取り組みとして「いじめま宣言」が行われている。

9月19日から22日まで市中体連秋季大会が行われた。

10月2日には中間テスト、10月17日、18日の両日は浪中祭が行われ、11月26日には期末テストが行われている。

また、12月1日から4日まで三者面談が行われた。

(イ) 2学期の出来事

a 暴言・嫌がらせと友人や教員への相談

省き・陰口から始まり、いじめ宣言、直接のあだ名や悪口、すれ違いざまの暴言とだんだんエスカレートしたと述べる生徒がいる。このころ、[]や[]が葛西りまとすれ違いざまにわざとぶつかったり、足を踏んだり、「なにお前調子乗ってるんだよ」「クラスにいらない」、「男たらし」と聞こえるように言ったり、クラス内で、外に漏れるような大声で同様のことを叫んでいたりする様子を現認した生徒がいる。また、LINE上での暴

言は引き続いており、9月26日の「あご出すぎだよおかめ納豆」、9月28日の「や、あご黙れよ」といった書込みを、葛西りまは自らのスマートフォンにスクリーンショットを残している。

こうしたことと前後して、涙ぐむ葛西りまの様子が見られる。他のクラスの生徒で、放課後の掃除の担当場所が葛西りまの担当場所と近い生徒2人がおり、掃除の時間、よく話をしていたとしている。2学期の始め頃のことと思われるが、この2人の生徒がいつものように葛西りまに話しかけに行った際、何か暗い様子であったということがあった。「どうしたの」との問いかけに対して、葛西りまは、付き合う人とかが原因で仲間外れにされているからクラスにいたくないと述べ、話しながら涙ぐんだことがあった。この2人の生徒は何とっていいのかもわからず、まずは話を聞き、翌日以降も大丈夫？と聞いていたが、葛西りまは最初の2、3回は涙ぐむ様子があったものの、その後は大丈夫、頑張る、と言うようになった。

以上の「付き合う人とかが原因で仲間外れにされている」、「調子乗ってる」、「男たらし」といった点について、葛西りまが、当時の■■■■であった■■■■の名前入りのジャージを借りて着ているのを見て皆がやきもちを焼いていたとの指摘があり、このようなことを背景とするものである可能性がある。学年会長をしていたり、スカート丈を短くしたりしていたことや、化粧をしていると疑われていたこと（1年次からアイプチをしていた、眉毛を書いていたとの指摘がされている。）も、「調子乗ってる」の背景事情であった可能性がある。

また、こうした状況の中、葛西りまは、9月16日、保健室で「■■■■・■■■■から悪口を言われる」と話し、■■■■教諭と面談した。その後、■■■■教諭が3名を指導し、9月30日には葛西りまが再度保健室で、「■■■■の悪口も少しだけましになり、安心した」と述べている。葛西りまが■■■■に、■■■■教諭が3人を呼んで指導してくれ、その後しばらくおとなしくしていると嬉しそうに述べていたことがあったとのことであり、おそらく、このときのことであったと思われる。

b 欠席等の増加、起立性調節障害の診断と生徒たちの受け止め

(a) 欠席等の増加と起立性調節障害の診断

2学期に入ると、葛西りまは、遅刻、早退、欠席が多くなり、保健室利用も増加し、始業式の8月25日から9月一杯までで、体調不良等による欠席7日、保健室利用9回（うち4回は午前中か午後早い時間帯に早退）に及んだ。始業式の日「やまなみ」には、「今日から2学期だけど具合が悪いです。どうしましょう。」と記載され、翌日は発熱と頭痛で欠席した。その後も「やまなみ」には「とても具合がわるい」、「頭痛とはき気がしてやばい」といった体調の悪さを示す記載が複数みられる。保健室利用について、葛西りまだけが突出して多いということはなかったとされているが、保健室に行き、そのまま帰ってしまう様子について、生徒たちの中には、自分たちは

ちゃんと授業を受けているのにおかしいのではないかと思う生徒もいた。具合が悪そうには見えなかった、という話も複数なされている。

葛西 りまは、9月18日、[]において、起立性調節障害との診断を受けた。これについては葛西 りま本人も母親も前向きに受け止めていた。もともと葛西 りまは、7月ころ、体調不良が続くことについて、かぜなのかな、熱が下がらないけどかぜじゃないのかな、と戸惑う様子を見せており、何か所か病院に行っても原因が分からなかったが、ようやく上記の診断を得て、「病気だから私は具合が悪かったんだ」とすっきりした感じであり、医者から2ヶ月くらいしたらだいぶ良くなりますよと言われたと[]教諭に述べるなどしていた。この診断については母親から学校へ報告されるとともに、葛西 りま自身も他の生徒たちに話した。

(b) 起立性調節障害とクラスでの受けとめ

葛西 りま自身が話していたこともあり、生徒たちが病気のことを全く知らなかったというわけではなかった。しかし、葛西 りまが登校すると、うわつ来た、という感じになり、すぐに早退することとなった際に[]が「帰るんだったら来んなよ」などと述べたりしていたとの話もある。

このように、クラス内で葛西 りまを責める雰囲気があることは[]教諭も認識しており、起立性調節障害と診断された後、葛西 りま及び家庭から了解を得て、クラスの生徒たちに、病名は告げなかったものの、葛西 りまは病院に定期的に通っていて、お医者様の指導を受けた上で休んでるので、ズル休みとかじゃなくて、具合悪くて学校に来れなくて苦しんでるんだから、責めたりとかは止めようと話をした。

この[]教諭の話については記憶していない生徒も多く、全員にきちんと受け止められたという状況ではなかったが、関係生徒の一人は、[]教諭からサボりじゃないからね、という話があったことを記憶していた。[]も「起立性・・・、病気のせいにして授業に出ていなかった。」としており、正確な病名までは記憶していなかったが、病気のために授業に出ていなかったということは認識していたことが分かる。ただ、[]の「せいにして」との発言にもあるとおり、本当に病気のせいで授業に出られないのかというところに生徒たちは得心がいていなかったものと思われる。

審議会は、平成30年4月27日付情報提供書及び6月29日付情報提供書と共に、葛西 りまのものと思われるプロフィール帳の提出を受けた。これは、リングで綴じられた一つのファイル内に、まず持ち主が自らプロフィール（性格や好きなこと、好きな人など）を書くページ、その後に持ち主が友達に渡してプロフィールを書いてもらうページが綴られるものである。葛西 りまは、冒頭のページに持ち主として記載しているほか、数枚のページに自ら記載し、綴じこんでいた。これらについては、どのような経緯で記載されたものかを確定することはできないが（上記情報提供書によると、葛西 りまは、プロフィール帳を友人同士の交換日記のようにも使っていたとの話

があるということであり、その過程で記載されたものとも思われる)、いずれにせよ葛西 りまが記載したものであるとは思われた。

その中に、1年次の9月29日に葛西 りまが記載したものとみられるページがあり(冒頭のDATEの欄に「2015.9.29」との記載あり)、「1年3組、1部の人以外、他クラスも1部、大っ嫌い!!!!!!」との記載があった。「やさしい」人として「[]」、好きな人として「1位 [] 2位 [] 3位 [] その他も」との記載があり、「[]」は[]、「[]」は[]、「[]」は[]、「[]」は[]、「[]」は[]、「[]」は前記の涙ぐみながらの相談の相手であった[]のことと思われ、当時の葛西 りまと生徒らとの関係がうかがわれる。

(c) 部活動での受けとめ

葛西 りまは、女子バレーボール部においても休みが多いことを責められる状況があった。葛西 りまが具合が悪くて部活に行けないと言っても、[]、[]、[]が女子バレーボール部1年生のLINEグループで「何で来ないのか」と葛西 りまを責め続け、「退部しろ」とか「ラインもやめてほしいし部活も辞めろ」などと書き込んだりもした。あまりにひどいので他の部員らが葛西 りまをグループから退会させたが、その後も3名がまた入れたり、退会させたりしていた。このあたりの経過について、LINEのやり取りそのものはスクリーンショットで残されていないが、葛西 りまの死後、自宅を訪れた女子バレーボール部の[]から、両親がその一部を見せられており、そこには、[]、[]、[]が葛西 りまが部活を休むことについて「どうせ仮病なんでしょ」などと言いつつやりとりが記録されていた。

結局、葛西 りまは11月下旬頃、女子バレーボール部を退部し、上記のプロフィール帳でやさしい人、好きな人として真っ先に挙げている[]らが所属する美術工芸部に入部した。

c 合唱練習の際の出来事

(a) 合唱コンクールとクラスの雰囲気

10月17日、18日の文化祭の初日に合唱コンクールが予定されており、クラスの雰囲気を作るメンバーである[]、[]、[]、[]がそれぞれ[]となり、[]が指揮者となった。特に、[]は、クラスの皆を巻き込むかたちで、金賞をとろうと頑張る雰囲気を作った([]は後に「[]」とツイートするなど、行事に対しては真剣に取り組む姿勢を見せている。)

1年3組はもともと、合唱は褒められるクラスであり、合唱コンクールに

向けて、パートリーダーを中心に頑張っていた。■■■■は放課後残って歌詞カードに「ここ強く」「小さい声で」と書き込んだり、自らCDラジカセを持って行ったりするなどし、■■■■や■■■■も教員が何も言わなくても男子一人一人の口に耳を当てて「もっと声出せ。声出せ」と言うなどしていた。

指揮者の■■■■は■■■■前日練習でもきちんとできておらず、伴奏の■■■■も■■■■していたとされるが、■■■■教諭が指揮も伴奏も止まってもアカペラでいこう、手拍子で歌えばいいじゃん、と言うと、皆がそうだよねと言い、本番には指揮も伴奏もずれることも間違えることもなくやり切ることができ、1年3組は金賞を獲得した。

(b) 葛西 りまの様子

葛西 りまは、このようなクラスの雰囲気について行けていない状況がみられる。小さな声でしか歌わないとの印象を持つ生徒もおり、練習の時マスクを着用したままであったとも指摘されている。■■■■教諭が、練習の際、複数の生徒がマスクをしていたのを見て、マスクを外すように言ったところ、葛西 りまだけがマスクを外さず、これに対して、■■■■が、「マスク外せや!」ときつい声で言うというエピソードが残されている。これに対しては、■■■■教諭は■■■■に「■■■■、注意してくれるのありがたいけども、優しくさ」と注意したとされる。

結果発表は10月18日に行われ、■■■■教諭は頑張った生徒たちをねぎらった。この日、■■■■の発表と重なり、葛西 りまと■■■■は公休をとっていた。ただし、「成功できてよかったです。明日はいけないけどけっかが(合唱)楽しみです」と「やまなみ」に記載している。

d 動画拡散事件

10月16日、■■■■と■■■■の■■■■を録画した動画が、学年を越えて生徒たちに拡散していることが発覚し、同月19日にかけて当事者及び動画を見た生徒らの聴き取りが行われた。

葛西 りまも、このことについて知っており、「学年中で噂になっちゃってる」と家庭で話題に出していた。この動画に関し、■■■■が周囲の生徒から「■■■■」と言われ、その中には葛西 りまもいたとの話もあった。

e ■■■■との交際の解消

前述の通り、葛西 りまは、8月の初旬頃から、■■■■組の■■■■と付き合い合っていた。

10月■■■■日、■■■■は、葛西 りまが■■■■を好きなのではないかと疑い、■■■■を考え、葛西 りまに伝えている。しかし、葛西 りまとのやり取りを経て「■■■■」と述べ、■■■■には至らな

かった。このことについて、[]は「[]」という人物と、Twitterで以下のやり取りをしており、高い関心を持っており、このいきさつについて、揶揄するような書き込みをLINE上で行っている。

[] ; え、wwwwwwww なになになに 結局別れなかったの? wwww

[] ; []、なんだかんだやってやつのこと大好きだよな

その後も[]は「あの口調だと、[]が振られる感じ? wwww」「まじそれなwwwwww 好きっぽくねwwww んで、[]がもう嫌になった…てきな?」などとツイートしている([]、[]葛西 りまのことと思われる。)

その後、11月[]日には葛西 りまと[]の間で、[]が葛西 りまに「[]」と述べ、葛西 りまが「[]」という条件でこれに同意したやり取りがなされているが、その後まもなくの同月[]日には[]の方から葛西 りまに別れを告げている。

葛西 りまからすれば、[]に[]経過があり、それを許して「[]」後1週間も経たずに別れを告げられたことは、数度にわたって裏切られたとの思いを持たせるに足る経過であったと思われる。[]は別れを切り出した理由について「[]」と送っているが、葛西 りまはこれに対し「あーうん、やっぱりそんなもんなんだよな」と返しており、納得していない様子が表れている。

なお、[]は葛西 りまと別れて間もなく[]と付き合い、葛西 りまが怒ったとの話もある([]と[]はその後1ヶ月も経たないうちに別れたとの話がある。)[]がすぐに次の交際を始めたとすれば、「[]」するためとの理由は真の理由ではなかった可能性があり、少なくとも葛西 りまはそのように受け止めた可能性がある。

(ウ) 2学期中の葛西 りまの様子

a 起立性調節障害診断以降の欠席等の状況

以上が2学期の葛西 りまに起きた出来事であるが、起立性調節障害の診断を受けた後の10月以降の欠席等の状況は以下のとおりである。

- 10月 手踊りによる公欠1日を含む欠席5日、遅刻と保健室利用各1回
- 11月 体調不良による欠席6日、頭痛による保健室利用4回(うち1回は午前中に早退)
- 12月 体調不良等による欠席3日、吐き気等による保健室利用3回(うち1回は午後早い時間帯に早退)

b 葛西 りまの様子について

10月以降の状況について、葛西 りまは、「やまなみ」にも、9月から引き続き、複数回にわたり体調が悪いことを記載している。

これに対して、11月10日には、■■■■教諭が「いつ具合よくなるんだろう？続くなら、悪くてもやる！という気持ちを持つしかないと思います。」と記載している。

また、保健室では、11月16日に■■■■教諭に「■■■■が■■■■・■■■■と離れて近付いてきた。■■■■と呆れている。教育相談で■■■■先生に相談したい」と、■■■■からの■■■■の申出について記載している。また、11月18日には、「■■■■・■■■■が、■■■■の悪口を言っている。教育相談で■■■■先生に相談したい」と話しており、引き続き■■■■ら3名の悪口に悩んでいる様子が分かる。

部活についても、11月19日には「やまなみ」に「胃もいたいです。頭もいたいです。起りつ性が治るまで、部活も休もうかなと考えています。はやく治んねーかな。」と記載し、20日に「今日はまた頭いたいです。部活も休みます（治るまで）美術かボラ部への転部も考えます。」と記載し、26日には、実際に、美術工芸部に見学に行き、12月4日までに転部を決めている。こうした記載の背景には、9月中旬の診断時、2ヶ月くらいしたらだいぶ良くなると医師に言われ、前向きに受け止めたにもかかわらず、思うように改善しないことへの苛立ちがあると思われる。

このような人間関係や体調の悩みに加え、勉強面について悩む記載が、「やまなみ」になされている。

8月27日に「(テストについて) てごたえなさすぎてヤバイです。300点いかないかも・・・」と記載し(このときは結果としては満足な出来であったようで、9月3日に「順位が2つ上がってよかったし、350点を超えられたのでよかったです。」と記載している。)、11月26日にあった期末テストについて「自分では180～270の間です。今回は本当にダメでした。手ごたえなかった・・・」と記載するなど、心配する記載が複数みられる。

エ 3学期の出来事と葛西 りまの様子

(ア) 3学期について

12月23日から1月14日までの冬休みを経て、1月15日に3学期が始まる。1月18日に、休み明けテストが行われ、2月17日、期末テストが行われている。

3月11日、卒業式、3月25日、修了式が行われ、当該年度の学校行事が終了する。

(イ) 3学期における葛西 りまの出席状況と様子

3学期に入った当初、1月は欠席が3日で保健室利用はなく、26日には「起立性が治ってきたのかなと思いました」と「やまなみ」に記載するなどしていた。しかし、1月28日から2月にかけて欠席が多くなり、1月28日（木曜日）から土日を挟んで2月2日（火曜日）まで4日間、2月8日から10日まで3日間、2月15日から16日まで2日間、2月22日から25日まで4日間の連続欠席があった。

2月1日に[]を受診した際には、立位の血圧測定において、めまいやふらつきが強く、測定中止となり、「めまいは良くなっているときもあるが急に強くなることもある」と聴取されている。

勉強面についても、「やまなみ」に「授業のおくれを取り戻していきたい」「テストは3教科返ってきて、まだ200点いってないので、やばいです」「これからもっと勉強しないとダメだと思いました」などと、遅れ等を気にする記載が複数されている。

前述のプロフィール帳の中に、2月29日に書かれたとみられるページがあり（DATE欄に「2016. 2. 29」との記載あり）、その中には、9月のものには記載があった「やさしい」人の欄に「いない」と記載され、「(私の)性格は「くそ」だよ!」、持ち主(自身)の第一印象は「ブス」、今の印象は「くそ人間」との記載や、「最近ひねくれてきました。今死んでもどーでも良いと思ってます。」「切実に二次元行って幸せに暮らしてみたい。つーか三次元でも権力とか信頼とか欲しい。アイツらに復しゅうするためだけにね」との記載がされている。

2月ころ、葛西 りまの体調不良が続いていたため、母親が「何か学校であるの?だから具合悪いの続いているの?」と問うと、葛西 りまは「そういうわけではないけど」と言ったが、母親としては、きっと何かあるんだろう、本人が言えないだけなんだろうと感じたとのことである。このころ、家庭においては、両親と葛西 りまとの間で(2年次は)[]、[]、[]と別のクラスになればいいね、という話がされており、このままの状態が続くと転校しなきゃいけない、した方がいいんじゃないか、と両親が考える状況であった。このこと(クラス替えがないなら転校した方がいいのではないかと両親が思うほどの状況であったこと)については、学校側に明確に伝わった状況ではなかった。

(ウ) 3月の出来事と葛西 りまの様子

3月16日、[]と共に葛西 りまがキャリア講演会で[]をしていたところ、[]が「キモイ」を連発したということがあった。[]はこの日の出来事について、自らの「やまなみ」に「今日はキャリア講演会の[]をしました。なぜかわからないけど[]にきもいをれんこされました。はらたちます。がんばったのに。」と記載した。

このような出来事はあったものの、[]教諭によれば3月11日の卒業式

以降ころから葛西 りまの体調はよくなったようであったとのことであり、3月中旬ころ、自身でも■■■■教諭に「何となく気持ちがさっぱりした」と述べていたとのことであった。欠席も2月が多かったのに比べ3月は3日と減った（遅刻5回、早退1回はなおあった。）。

葛西 りまは、2年生のクラス替えの際は■■■■、■■■■、■■■■と離して欲しいとの希望を■■■■教諭に伝えており、この希望が叶えられることを信じて、この時期、■■■■と共に、とにかく2年生のクラス替えまで何とか頑張ろうと、互いに鼓舞し合いながら日々を過ごしていたとの話がされている。

治療においても、3月17日■■■■において、引き続き頭痛が単なる偏頭痛ではなく心因性の要素もあると判断され、■■■■が処方された。その後、3月31日の受診時には頭痛は少し楽になったと述べていた。

(2) 2年次の葛西 りまに生じた出来事

ア 1学期

(ア) 1学期について

平成28年度の新学期は、4月7日にスタートした。新入生を迎える行事がなされた後、前年同様、4月26日、非行対策等の集会が行われたが、平成28年度は、いじめを含めた「万引き・いじめしま宣言集会」という形で行われている。5月21日には運動会が、3日間の部活動を休止しての学習強調週間の後の27日には、中間テストが実施された。6月に入ると、11日～13日の日程で市中体連夏季大会が行われている。平成28年度は、6月22日に、命の大切さを学ぶ教室も行われた。6月27日から29日の日程で、部活動を休止し、全校教育相談、学習強調週間が設けられ、翌6月30日には期末テストが実施された。

7月5日には、思春期健康教室、14日には、薬物乱用非行防止教室も行われている。

(イ) 1学期の出来事

a 新たなクラスでの生活の始まり

2年次のクラス編制に関しては、人間関係の配慮がなされ、葛西 りまは■■■■、■■■■、■■■■とは違うクラスである4組となり、新たな学校生活をスタートさせた。4月11日の学年会議では、このクラスについて、「全体的に男子が落ち着かない」と指摘されているが、女子の問題については指摘されていない。■■■■、■■■■は■■組、■■■■は■■組であり、■■組と■■組の教室の間には教材室があつてすぐ隣り同士の配置ではないほか、登下校時の階段利用等は共通することが多いものの、日常のトイレの使用などは、動線としては重ならないよう配慮もなされている。

4月は欠席等なく過ごすことが出来、「やまなみ」にも、15日に「ちゃ

んとした授業がはじまりました。去年より大変になると思うけど、がんばっていこうと思います。」と前向きな記載がされている。

4月17日には手踊りの大会で優勝し、「やまなみ」に「8月の東京で行われる全国大会もがんばります」と記載し、18日の[]にも「頭痛は落ち着いてきた。最近はずーずーに起きられるようになった。めまいは時々あるが少なくなった」と体調の改善を示す話が聴取されていた。葛西 りまから好きだと告げたことがきっかけとなって4月から[]と付き合いことともなり、お揃いの[]を持つなど仲良くしており、[]の[]教諭にも報告するほど、葛西 りまにとって喜ばしい出来事であった。また、[]教諭に対しても、5月頃、今のクラスが楽しいと述べていた。

もっとも[]との交際について、[]の[]に引き続き、[]の[]と付き合いようになったため、「[]とばかり付き合っていて気に入らない」と思われていた、との指摘もある。

クラス替え後、母親から学校に対し、葛西 りまを迎えに行った際に、2年次にも[]、[]、[]と同じクラスになったら転校しなければいけないところだった、と話したとのことである。

b 化粧にまつわる出来事

このように順調な滑り出しを見せた2年次であったが、残念ながら、長くは続かなかった。

2年[]組の[]、[]が[]組担任の[]教諭に葛西 りまが化粧をしていると言ったことをきっかけとして、4月22日、葛西 りまは、[]の[]教諭から、[]とともに、化粧用のコットンで顔を拭いてみるよう言われることとなった。[]、[]らは、休み時間等での[]の[]教諭との雑談の中で、校則で禁止されている化粧の話題となった際、[]と葛西 りまの名前を出し、これを、[]教諭が一応の情報提供として[]教諭に伝えたもので、特段、1年次の嫌がらせとの関連性は認められない。

[]教諭からは、化粧はしていないと思うが、と添えられて伝えられており、[]教諭もそのように思っていたとしている。[]教諭は、[]と葛西 りまに対して、化粧用のコットンを渡して拭くように指示をするが、[]教諭としては、両名の身の潔白を示そうと思ってそのように指示をしたとしている。ただ、十分な説明がなされずに（少なくとも[]は突然拭かされたと記憶していた）その指示を行ったため、2人にとっては教諭に疑われたと思うことになり、つらい出来事になった。葛西 りまは、帰宅後母親に対し、頭にきたから、思いっきりいっぱいこすって、ほらやってないでしょって見せたよ、と憤慨して話したとのことであり、また、この日の「やまなみ」に「けしょうを学校にしてきてるって疑ってた人の誤解がとけると

いいです。最悪な日でした」と記載した。

そればかりでなく、同じ4月22日、[]がTwitterに、以下のとおり、化粧のことで、クラス替えの配慮を希望したことについて批判する記事を投稿している。

[];学校に化粧してくる人ってなんだろうーねー、
すごい勇氣！！
親に頼んで仲良い人とクラス同じにしてもらってるくせにほざいてんじゃねえよ、言っとくけどチーク浮きすぎて変だよ？りんご病の人みたい
[];乙奴～w
[];化粧してるやついんのw
[];んだよありえない

葛西 りまらの化粧について問題にした[]、[]は、[]と同じ[]組であるが、クラスでこれを問題にした際に、なんらかの形で、[]の耳に入った可能性は高いが、[]、[]は、[]と同じクラスであるとしても人間関係においてこの時期、[]と連動する可能性は低い。また、[]自身は、「[]」とLINEに書き込んでおり、この時期、新しいクラスで1年次のような関係を形成していなかったものと思われる。

しかし、これをきっかけとして葛西 りまの化粧の問題が話題にされるようになっていく。[]、[]、[]が揃って2年4組の教室に行き、[]教諭に葛西 りまがアイプチをしているので指導してほしいと言うことがあった。アイプチについては、以前より、このメンバーは、これにちなんだあだ名をつけていたが、この時点では、校則違反の問題として訴えている。このとき[]教諭は取り合わなかったということではあるが、それでは収まらず、逆に、5月4日、「[]」（前述の[]と思われる）の「アイプチも立派な化粧です」「学校に化粧してくるとかw本当ありえない」とのTwitterが、[]によりリツイートされている。

また、6月4日に[]が「学校にアイプチしてきてるひといんだってー」「そんなにかわいくみせたいのかってね」とLINEするなど、化粧のことで葛西 りまを揶揄し、責める状況になった。

2年次の生活が順調に始まり、一旦おさまったかのように見えた葛西 りまを責める等の行動が、上記のとおりすぐ再開してしまったため、4月終わりころ、家族皆がリビングにいた際に、誰からともなく、転校についての話が出、皆でこのことについて話し合った。最終的には、葛西 りま自身が、自分が転校するともう一人ターゲットになっていた[]に攻撃が集中してしまうのではないかとの懸念を述べ、転校しないと決断した。

c すれ違いざまの暴言など

1年次になされていたすれ違いざまに「死ね」「キモイ」などの暴言を言い放つことは、2年生になってからも続いている。1年次は、[]をはじめとしたクラスのメンバーによってなされていたが、女子バレーボール部の[]からもこれがなされている。また、[]、[]、[]らが4組の教室に来て廊下側の窓等から顔を出して「葛西 りまいる？」とクラスの生徒に聞いたり、「アイプチ女はどこだ」などと言うということもあった。

[]と[]は、もともと顔は見知っていたと思われるが、小学校時代、中学校におけるクラスにおいてそれほど接点はなかったと思われる。2年次、[]と仲のよかった生徒が、[]のいる[]組になり、その生徒が[]と親しくなったことから仲がよくなったとされる。また、[]はバスケットボール部であり、[]が所属する女子バレーボール部と体育館という同じ場所で練習をしていたこと、良い意味でも悪い意味でも[]と関係の深かった葛西 りまが[]と一緒に女子バレーボール部の元部員であったことから接点があった可能性はある。また、[]は、1年次の10月頃、[]と[]おり、2年次4月に葛西 りまが[]と[]始めたことをよく思っていなかったとの指摘がなされている（2人は「一軍」同士のビッグカップルとして公認の仲で、[]が1年次の10月ころに「[]」とツイートするなどしていたが、[]の方が[]続けることを無理だと感じて別れるに至った。その後[]が泣いていたり、LINEに[]と書いていたりしたとの話がある。また、[]が[]と別れた後、葛西 りまの前に付き合った[]を[]が呼び出し、別れさせようとしたことが複数回あったとの指摘もある。)

しかし、[]が、この時期、葛西 りまにすれ違いざまに暴言を言い放っていたこと、および、[]、[]と連れだって葛西 りまのいる4組におもむき悪口を言っていたことは、複数の生徒の証言で確認はできるものの、いずれも、こうした言動の理由については断定できない。

なお、[]は[]組で、廊下を挟んで[]組の隣に教室があり、トイレや階段などの生活動線は[]組と同じである。[]が、暴言を行い始めたことにより、葛西 りまは、教室を右に出れば[]と遭遇し、左に出れば[]と遭遇する形になった。

d 不名誉な噂とこれによる交際解消

6月8日、葛西 りまが、他の中学校の生徒と関係を持ったことを内容とする噂が流され、LINE上で書き込まれた。噂は、これによって広がり、[]はこれを信じ、葛西 りまに別れを告げ、2人の

関係は解消している。

噂の内容は、葛西 りまが [] と [] のに [] の男子と二股をかけており、性交渉をもったとの噂である。この噂の出所に関し、調査によって辿れた起点は [] であり、 [] が、「誰か」がこの噂を話しているのを聞いたと述べ、 [] と [] は [] から聞いたとしている。

ただその状況としては、以下のとおり、三者の供述が食い違っている。 [] は、「廊下で [] と話している時に誰かがその噂について話しているのを聞いて、 [] に『今の聞いた?』と言い、 [] は聞こえていなかったようだったので内容を告げた。」「部活のときにそれをしゃべっていたら [] が入ってきた」「その噂について [] に聞いたら『らしいよ』と言われた」と述べ、その「誰か」が誰であったかは分からないが、男子だったと思うと述べた。ただし、最新の聴き取りでは女子であると述べている。

[] は、この噂を「 [] から聞いた」、「最初はバレー部で話してて、広がった」と述べており、「廊下での雑談時に聞いた」とはしていない。 [] は、この噂を「 [] から学校の廊下で、『ねえ、聞いて』って感じで聞いた。」と述べており、「部活の時に聞いた」とも、「 [] から聞いた時には既に知っていた」ともしていない（上記の [] の供述（ [] から「らしいよ」と言われた）からは、その時点で [] が既に噂のことを知っていたというようにとれる。）。

このように、印象的な噂であったにもかかわらず、それを聞きつけた状況については具体性がなく、関与者の供述も異なっており、真の経過がどうであったのかには疑問が残る。いずれにせよ、この噂の拡散は、後述のタイムラインの書込みから始まったものであり、それ以前にこのような噂が現に存在していたのかを確認することはできなかった。

この噂については、6月8日午後8時ころ、 [] が葛西 りまにLINEで事実かどうかを確認し、葛西 りま はこれを否定したものの、 [] はさらに、「やってないっていう証拠でもあるの?」などと述べ、「みんな、(性交渉まで) やってないと思ってるけど、二股わしてるなって感じだよ」とも述べている。葛西 りまは「二股も絶対してない」と答えている。

そして、同じ6月8日、 [] がタイムラインに「おかめなっとうが二股している」と載せ、 [] が「アイプちちゃんがー??筒井のあはあはさんとー??やっちゃった!?!?!?♪♡」と載せた。

[] の書込みについてはスクリーンショットが残されておらず、客観的な記録からは [] と [] の書込みの前後関係は明らかではないが、 [] は、先に [] がタイムラインに書き込んだとしている。また、 [] の書込み以降のやり取りは葛西 りまがスクリーンショットを保存しており、 [] の書込みが [] より後であれ

(ウ) 葛西 りまの様子

a 2年次の始まりと葛西 りまの様子

1学期、クラスにおいて安定した環境が整えられたこともあり、4月は欠席等なく過ごせた葛西 りまであったが、4月22日に化粧を疑われた出来事があった後の5月には、欠席6日となった。うち4日は感染性胃腸炎によるものではあったが、「やまなみ」には具合が悪い、発熱、立ちくらみ、頭痛などの体調の悪さを示す複数の記載があった。また、「勉強がすごくおくれてしまったので、これから取り戻します」「すごく頑張って勉強したのに、今朝起きたら忘れてました。200点とれた気がしないです」「テスト全部かえってきました。1年の期末より下がってました。2年生になると難しくなります」と、勉強の遅れやテストの点の低下を気にする記載も複数されていた。

5月10日に発行された学級通信には、4月26日に行われた「万引き・いじめしま宣言」集会を終えての感想として、葛西 りまの「(万引き、いじめとも) 本当に両方ともしないようにしようと、改めて思いました。遺書を聞いて、いじめた側は本当にひどいと思ったし、いじめられた側は、自分をすごく卑下するようになるんだと思いました。(中略) 万引きもいじめもしないし、傍観者にならないようにしていきます。」との原稿が掲載されていた。

b 6月の噂にかかる出来事と葛西 りまの様子

前述の噂にかかる出来事があった6月は、体調不良等による欠席9日、遅刻2回、保健室利用2回(いずれも午前中又は午後早い時間帯に早退)と、欠席等が増加した。噂が流されLINEでの拡散が起きた後、葛西 りまは[]と電話で話し、「もう学校いけないし、無理じゃん。」「どうしよう。」「と述べていた。[]は、その際の葛西 りまの様子を、敢えて軽く言おうとしているようでもあり、とはいえやっぱり悲しいし辛いし悔しいし、もう、どうしよう、という感じであったと受け止めた。葛西 りまが辛いと感じたのは、噂が流れたことだけではなく、クラスの人がそれを信じて「いいね」を押してしまったこと、[]([])にも信じてもらえなかったこと、その全てであった。家庭でも、まず母親に、ショックを受けた様子でこんなこと言われてるんだけど、と話し、「りま、[]って、どこにあるかも知らないし、」とすごく怒った様子であった。父親が帰宅した際も、何かあったんだろうとすぐ分かる雰囲気ですぐ葛西 りま、母親、姉が話をしており、葛西 りまは、怒りながらも、参っている、本当に困っている、といった様子であった。

c 6月の噂以降の生徒の対応と葛西 りまの様子

この件に関しては、事態の重大性を感じたのか、これに関与した[]が葛西 りまに対し、6月15日に「[]」、「[]」

とも付き合う気ないんだよね」と返し、「[]」「[]」と言われて「今、やったとかいう噂で傷ついているから」とさらに返した。

勉強面については、「やまなみ」に「(4教科で)200点はとりあえず超えました。1年生のときは5教科で400点だったので、ちゃんと勉強します」と点数を気にする記載をし、「夏休みに入るけど、手踊り忙しいし、実質数日しか休みない気がします。10日までに宿題終わらせるとか、鬼畜・・・」と宿題が終わらないのではないかと気にする記載がされている。

7月下旬、葛西 りまは、[]、[]とともに、平成28年度浪中祭(10月15日、16日に予定されていた)の生徒自主発表として、[]をした。提出については葛西 りまが中心となって他の2人と内容を相談し、申込書も葛西 りまが作成したとされる。

イ 夏休みの出来事と葛西 りまの様子

(ア) 夏休みについて

7月21日、終業式が行われ、翌22日から夏休みに入った。7月25から29日の日程で、三者面談が全学年で行われている。前年同様、葛西 りまは、手踊りの会に入っており、夏休みは多くのイベントが予定されていた。

(イ) 学校での出来事と葛西 りまの様子

夏休み開始以降、葛西 りまは、7月25日の学習会、28日・29日の出校日に登校した。その際のいずれかの日に、葛西 りまが学校指定の色ではない色の靴下をはいていたところ、[]からそのことについて文句を言われたとされている。このことについて、葛西 りまは、自宅に戻ってから両親に「いちいち言って来なくてもいいのに」と述べた。

7月27日の三者面談では、葛西 りまは、[]教諭に、[]がすれ違いざまに何か言っている気がするとの話をした。

8月16日・17日に全校登校日が予定されていたが、[]と葛西 りまは[]のため公休扱いで欠席した、その代替として、事前に8月10日に個別に宿題点検日が設けられた。葛西 りまは8月9日の「やまなみ」に「宿題終わらない・・・」と記載していたが、[]教諭によると、宿題点検日、葛西 りまは宿題をきちんと終えており、[]教諭は答えを配布した上、追加の夏休みの宿題を渡し、追加の宿題は8月25日の夏休み明けテストの日に回収するから勉強もがんばるようにと葛西 りまを励ましたとのことである。

(ウ) 学校外の出来事と葛西 りまの様子

夏休みに入ると、前年同様、手踊りの会のイベントが複数予定されていた。7月24日には、夜店祭りの歩行者天国でのイベント、8月14日から17日にかけては黒石よさで手踊りを披露することとなっていた。17日につ

いては、花火大会が延期となり、21日に行われている。なお、葛西 りまは、手踊りのイベント以外、プールに行ったとされており、その際、「仲間外れにされている」とこぼすこともあったとされている。

7月24日の夜店祭りの歩行者天国で手踊りを披露した際、出番を待っているときに、葛西 りまは、 らがいるのを見付け、「会いたくない」として隠れるようにしていたところ、 がそばに寄ってきて「頑張っ

てねー」と手を振ってきた。これに対して、葛西 りまは、愛想笑いを浮かべてやり過ごすということがあったとされる。

葛西 りまは一緒にいた母親に対し、「踊るの見てなきゃいいな」「あとでこそこそ陰で言うんだよ」と不快そうに述べていた。なお、 については、手踊りに行く途中、薬を買いに行っている母を車の中で待っている間、葛西 りまは を見かけ、母に、「嫌な人見ちゃった」と言ったとされている。

15日の黒石よされでは、手踊りを披露したあと、 の に連れられて、 、 と共に八幡様のお祭りに出かけたが、その際、 他バスケットボール部メンバーと遭遇した。その際、 は、 にだけ「あ、 、ヤッホー」と言い、 と葛西 りまを睨んだとされる。また、一緒にいた男子たちが、「りまりまりま」と、葛西 りまの名前を連呼した。葛西 りまは、この出来事について、帰宅後両親に対し、疲れた様子（心労）、落胆した様子で語ったとのことである。

また、家庭での話であるが、手踊りの行事が全て終わったころ、家族のだらんの時間に突然、葛西 りまが、ソファに寝そべった状態で何かをしながら、夏休みが終わらなければいいのにな、と暗い様子で言うということもあった。また、本来得意な絵や裁縫（クロスステッチ）の宿題をなかなか進めることができない状況であったとされる。

ウ 2学期の出来事と葛西 りまの様子

(ア) 2学期について

8月24日、2学期の始業式が行われた。翌25日には、休み明けテストが予定されていた。

(イ) 2学期に向けての葛西 りまの様子

葛西 りまは、2学期を迎えるに当たって、2学期の目標を記載する書面に「学習：全教科分からなかった所を家庭学習で復習する。」「生活：忘れ物を少なくする。生活リズムを整える。」「部活動：頑張っ

との問いに対しては、「自分たちのために大変な仕事を一生けん命頑張ってくれている。毎日ごはんを作るのは面倒だけどちゃんとつくってくれている」と記載した。

国語の授業では、「鮮やかな 着物をまとい 全国へ 息をそろえて優勝めざす」「お姉ちゃん かなり気分屋 女王様 だけど時々 頼もしくなる」「わがままで ちこくばかりの 友達は 実は優しいよく笑ってる」との短歌を作った（四つの欄が用意されていたが、最後の欄は空欄であった。）。

「やまなみ」には、8月24日に■■■■教諭が書いたと思われるコメントとして「■■■■の宿題も一緒にやってあげて下さい」とあり、葛西 りま自身は順調に宿題を終えていたと考えられる。

このように、葛西 りまは、宿題をきちんと終えて始業式に臨み、当日の課題等にも真面目に取り組んでいたとみられる。

(ウ) 2学期の出来事と葛西 りまの様子

8月24日、■■■■は、始業式後、次の授業が始まるまでの休み時間に、再度葛西 りまに6月8日の噂の話を持ち出した。■■■■としては、別れた後も葛西 りまのことが気になっており、その噂が嘘なのか、本当なのかどうしても知りたくて、葛西 りまに話をしたとしている。否定する葛西 りまに対して、タイムラインに載ったということは、それが事実だとわかって載せたと思うと言ったところ、葛西 りまが怒って話さなくなってしまった。

葛西 りまは、その後、■■■■と話をしている。怒っている様子の葛西 りまをみて、■■■■がどうしたのと聞くと、■■■■がその話をしてきた、そんなことしてないのに、まだ（その話が）あるの、などと述べていたとされている。

また、この日、葛西 りまは、■■■■と一緒にトイレに行こうとしたところ、廊下で■■■■に会い、「きもい、うぎー、なんできてんの」ときつい感じで言われたとされている。さらに、その日、6時間目の技術の授業から戻る際、廊下で葛西 りまと■■■■は、■■■■から「死ねっ！」と言われたともされている。

帰宅後、両親が学校での様子を尋ねると、葛西 りまは楽しかったよ、とは答えたものの、技術の移動教室時に■■■■から「死ね！」と言われて嫌だった、との話もしていた。また、「翌日行われる休み明けテスト点数悪くてもいい？」と母親に聞いたとされる。これに対して、母親は「いいよ」と答えた。

なお、24日は手踊りの練習があり、葛西 りまは■■■■と息の合った踊りをみせ、練習後は年上の友人と話し込んでいたとのことである。

(3) 葛西 りまの自殺

8月25日、葛西 りまは、朝のスクールバスで学校に行くことができず、母親から学校に対し遅刻する旨の連絡をした。

その後、葛西 りまは、母親の準備した朝食を食べ、学校のジャージを着て家を出、JR北常盤駅に行き、スマートフォンに遺書を残し、線路に身を投げて自殺した。

4 葛西 りまをめぐる出来事に対する学校の対応

(1) 中学校の組織について

ア クラス

中学校は、1年5クラス、2年4クラス、3年5クラス（平成27年度）で編成されている。平成27年度の1年生では、[]教諭が1組を、[]教諭が2組を、[]教諭が3組を、[]教諭が4組を、[]教諭が5組を担当している²。また、この学年が2年生になる平成28年度においては、[]教諭が1組を、[]教諭が2組を、[]教諭が3組を、[]教諭が4組を、[]教諭が5組をそれぞれ担任している³。

イ 部活動

中学校には、部活動が22あり、それぞれ、顧問として、女子バレーボール部は[]教諭、[]教諭が、バスケットボール部は[]教諭、[]教諭が、野球部は[]教諭が、サッカー部は[]教諭、[]教諭が、陸上部は[]教諭、[]教諭が、女子ソフトテニス部は[]教諭が、男子ソフトテニス部は[]教諭が、ソフトボール部は[]教諭が、卓球部は[]教諭が、剣道部は[]教諭が、吹奏楽部は[]教諭、[]教諭、[]教諭が、科学部は[]教諭が、家庭部は[]教諭が、パソコン部は[]教諭が、ボランティア部は[]教諭、[]教諭が就任している。

ウ 学校組織

中学校には、校長、教頭以下、教務主任、生徒指導主事などの役職があり、それぞれの教員は各学年に所属した上で生徒の指導に当たっていた。つまり学年を縦軸、教科及び分掌組織（教務、研修などの教員の役割）を横軸とし

² 平成27年度、2年生は、[]教諭が1組を、[]教諭が2組を、[]教諭が3組を、[]教諭が4組を、[]教諭が5組をそれぞれ担任している。3年生は、[]が1組を、[]教諭が2組を、[]教諭が3組を、[]教諭が4組を、[]教諭が5組をそれぞれ担任している。なお、特別支援学級があり、[]講師が担任している。

³ 平成28年度について、1年生は、[]教諭が1組を、[]教諭が2組を、[]教諭が3組を、[]講師が4組を担当し、3年生は、[]教諭が1組を、[]教諭が2組を、[]教諭が3組を、[]教諭が4組を、[]教諭が5組をそれぞれ担任し、特別支援学級を[]講師が担任している。

た一般的な中学校の職員組織編成をしている。

(ア) 主任会

校長の学校経営上、重要な会議として主任会が位置づけられている。この主任会は、校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、各学年の学年主任、保健主事（養護教諭）で組織されており、原則として毎週月曜日に開催されている。主任会記録によると、その内容は予定の確認や各担当からの報告、校長からの指示、市教委からの指示等が議題とされている。

生徒指導上の問題について、各学年及び生徒指導主事から報告がなされており、毎回、各学年3～5人程度の生徒について話題に上がっている。また、主任会では、教員の服務上の問題、健康診断の結果、生徒指導上問題（非行）のあった生徒の指導経緯など、非常に多くの事柄が取り上げられている。

(イ) 学年会議

学年会議は、学年の経営方針に従って、日々の指導を充実させることを目的に、その学年に所属する教員によって行われる会議である。

この会議は、その学年の指導に実際にあたる教員集団で行われる会議であるため、当該中学校の組織の中で、生徒への日々の指導において、最も重要であると言える。学年会議の主な議題としては、主任会の報告、予定の確認、各種の行事に加え、気になる生徒の指導方法についての情報交換である。

この学年会議の中で、個々の生徒への指導、生徒同士のトラブルへの対応が話し合われている。1週間に1回程度、実施されることになっているが、実際には、2週間に1回程度、1時間程の会議が行われている。

(ウ) 生徒指導部

いじめに限らず、生徒の行動上の問題を扱うのは、生徒指導主事を中心にした生徒指導部である。生徒指導部は、学校内の分掌組織の一つとして位置づけられている。

学校要覧によると、生徒指導部に所属する教諭は、平成27年度は8人、平成28年度は6人である。分掌の会議は、月に一回程度行われており、生徒指導部の場合、その内容は、生徒指導に関すること（生活のきまりの徹底、生徒に寄り添う活動の共同実施、共同指導体制に向けた情報の共有）、教育相談、安全指導、JUMPチーム⁴（全校のモラルの向上、地域行事・警察機関への協力、リトルJUMPチームとの連携）、地域との連携とされている。

⁴ JUMPチームとは、青森県警察のHPによると、21世紀を担う青森県の少年がさらに飛躍する、つまり大きく「ジャンプ」してほしいとの願いと「少年非行防止」の英語の頭文字をとって命名されたもので、学校内外において「万引き防止啓発活動」「自転車盗難被害防止活動」「非行防止や薬物乱用防止街頭キャンペーン」「いじめ撲滅運動」「あいさつ運動の励行」などをする事となっている。

(2) 1年次の出来事と学校の対応

ア 1学期

(ア) 担任によるグループ関係の把握

入学当初、葛西 りまは、[]、[]、[]と親しくなり、クラスの雰囲気を作るグループを形成した。このメンバーの関係は、すぐに変化し、それぞれ理由は異なるものの、時期的には順に、4月下旬頃、[]が省かれ、その関係が戻った後、5月頃、[]が省かれ、そして、それが戻った後、6月中旬頃、葛西 りまが省かれた。その中心には、[]がおり、[]に他が従うことでこうした関係が生じた。[]の場合、[]組の[]と一緒に、[]から省かれており、[]、[]、[]、[]に対して、保護者間での対応、教員（誰であるかは不明。[]教諭を含む複数の教員が5人を呼んだものと思われる。ただし、[]教諭が話し合いを持とうとしたところ、[]からは、必要はないと言われたとされている。）の指導で省かれる関係は収束したとされる。また、[]の場合、[]が謝罪に努めたことで収束した。

6月3日の学年会議における主任会報告において、[]、[]、[]について、「人間関係のこじれ」として把握されている。[]については、単独では名前が出てこないが、「[]、[]と主にLINE上でトラブルになり衝突を繰り返している。単独で名前が出ることはないが、誰かと一緒になってトラブルを引き起こす。」とされている。また、クラスについて、「3組内では、[]にあわせている様子がある。」として、クラスの見立てが記載されている。

(イ) 葛西 りまのグループからの省きと把握

a 担任による女子の間のトラブルの把握

葛西 りまについては、4月の終わり頃から、[]や[]の「いじり」に乗り切れず、切れ気味に返してしまっただけで場が静まってしまうようなことがあると見ていた者があった。また、5月30日の運動会が終わった頃から「省き」のターゲットが葛西 りまに移ったと見ていた生徒も複数あった。担任も、運動会でリーダーとして前に出たがうまくいかなかったと状況の変化を感じ取っている。

葛西 りまは、教育相談事前調査用紙（日付の記入がなく作成日は不明であるが、6月頃と思われる。）の「人間関係」の項について、「6 相談できる先生方がいない」のみ「3＝あてはまる」に丸を付け、その他は全て「1＝全くあてはまらない」又は「2＝あまりあてはまらない」を選択した。「相談できる先生方がいない」については欄外余白に手書きで「←先生に相談することがない」とのメモが記載されている。後方視的にみればこれも葛西 りまからの異変の示唆ともみられなくないが、これのみで直ちに異変と捉えることは難しかったと思われる。6月末ころに行われた教育相談（全校で6

月26日から28日にかけて実施)の際、葛西りまから■■■■教諭に対し、LINE上で変なあだ名を付けられる、外すように言われる、との相談があった。

内容についてはそれ以上具体的な話はなかったが、行為者については■■■■、■■■■であることを把握している。これに対して、■■■■教諭は両名に対し、「ラインとかやってるんだって？誰かが4月(の■■■■の時)みたいにやってるんじゃないの」と聞いたところ、■■■■は自分もやられたと前記の5月頃のトラブルについて述べた。

■■■■教諭が葛西りまから人間関係に関する相談を受けたのはこのときが初めてであったが、まず、4月の■■■■らの相談があり、次に5月頃、■■■■のトラブルについての話も把握するなど、女子の間のトラブルも把握している。その中心に■■■■がいることを把握していたことから、葛西りまからの相談にかかる出来事は、■■■■を中心とした女子同士の関係性の中で、順番に起きている問題として把握した。

b 担任の対応

■■■■教諭は、葛西りまの相談において、葛西りまが、その時点で、■■■■教諭に対し「携帯は落として捨てた」「LINEはやめた」との話を聴取している。ここから、■■■■教諭は、葛西りまに対して同様のことが続くことはないのだろうと考えたが、念のため学級全体に対し、LINEで特定の人を攻撃するようなことを書いてはいけないと指導している。

■■■■教諭はまた、■■■■の■■■■に電話で連絡している。その際、■■■■の■■■■に対して、LINE上で女の子同士で(悪口を言うなどして)仲が悪くなってしまうこともあるので、■■■■気を付けてもらいたいと話したのに対して、「■■■■」と電話を切られてしまったとしている。このやりとりを通じて、■■■■教諭は、■■■■に対して■■■■から何か指導してもらおうのは厳しいなと思い、葛西りまによればLINEはもう辞めたとのことでもあったので、それ以上強く■■■■に言うということはしなかった。

なお、このLINEのトラブルについては、■■■■教諭から■■■■の■■■■教諭にも伝えられ、■■■■教諭は■■■■教諭に葛西りまの保護者の方にも連絡をとるように言い、その後、■■■■教諭から保護者にも連絡したとの報告を受けたとのことであるが、保護者の側ではこの時期に報告を受けたことはないとの記憶であった。この点、学校がさらに踏み込んだ対応を行うことはなく、引き続き見守りを続けることとされた。

c 学年会議での共有

こうした点について、7月14日の学年会議において、葛西りまについて「■■■■、■■■■、■■■■との仲間割れ。欠席しがち」との指摘がなされ、「りまの母は本人に頑張ってもらいたい」とされた点も確

認されている。前述の教育相談で受けた相談において名前が挙げた生徒は ■■■、■■■であったとのことであるが、この学年会議の時までに、■■■についても葛西 りまが名を挙げたものと思われる。

■■■については、教員が何か注意をすると次の日休んでしまう生徒であったので、■■■教諭は注意したその日のうちに■■■の■■■に電話し、今日、こういうことで注意したので多分明日休みたいと言うかもしれないが来させるようにして下さいと話をするようにしていたとされる。■■■の■■■は指導について理解は示すものの、本人の行動は依然改善されず、■■■教諭は家庭での躰は期待しにくいと感じていた。

(ウ) 三者面談での相談

a 保健室での把握

葛西 りまは、1学期の終業式が行われる7月21日、体調不良のため午前中は保健室で休養している。その際、保健室の質問カードの「何か気になることがありますか？」との欄に「はい」と回答し、ストレスチェックシート「①急に息苦しくなることがある」、「④手足が冷える」「⑤肩がこる」「⑥時々めまいがする」「⑨目が疲れる」「⑩やる気が起こらない」「⑪頭がすっきりしない」「⑫疲れやすい」の8項目に丸を付けた。

「気になること」については、欄外余白に「→■■■、■■■、■■■の3人から、幼稚な嫌がらせを最近されている。家族に相談している。母は『暴力されたら相手の家へ乗り込む、転校させる』といている。」との記載がされている。また、「何でも書いて!」と記載された欄に、「■■■先生に相談したいが、私から先生に言うと、ちくったと思われて、さらにエスカレートするかもしれない。三者面談で■■■先生からそれとなく聞かれたら、安心して話せると思う」との記載がされている。

これらは、鍵括弧付きで記載され、大人の筆跡と思われることから、葛西 りま本人ではなく■■■教諭が聞き取って記載したものと考えられる。

b 三者面談での相談と対応

時期としては、夏休みに当たる7月23日から27日の日程で三者面談が実施されている。■■■教諭は、三者面談の機会に、LINEのトラブルについて、葛西 りまの名前は出さなかったものの、上記関係生徒を含む保護者らに対し、「保護者の分からないところでやってるかもしれないから注意してください」旨、話をした。■■■の三者面談においては、■■■の■■■が■■■に強い調子で「■■■」と言い、■■■がもじもじしながら「■■■」と答え、その後、勉強の点数がよくなかったことで■■■が■■■を怒り、親子喧嘩のような状態になってしまったとされる。そのため、■■■教諭はLINEのトラブルに■■■教諭が関わっていることを■■■に言うことができなかったとしている。

7月27日、葛西りまの三者面談が行われた。その際、■■■■教諭は、葛西りまの母親に対し、LINEトラブルの件については生徒たちに指導したこと、先方の親にも注意してもらえるよう話をしたことを伝えたとしている。他方、母親は、■■■■、■■■■、■■■■の■■■■にもきちんと伝えて欲しいと告げたが、曖昧な反応しか得られなかったとしており、このときのやりとりの記憶に齟齬がある。

また、■■■■教諭が葛西りまに対して、■■■■らから何か具体的にされたことはあるのかと問うと、葛西りまは、■■■■に「にらまれてる気がする」ということと、前記第2-3(1)イ(ウ)で記した7月25日の老人ホームでの手踊り披露時のことを述べた。このときのやりとりについて、葛西りまの母親は、自ら現認した状況として老人ホームでの出来事を話したのに対して、■■■■教諭は、■■■■らの問題性は認識しながらも、きちんと指導ができず、どうしようもないという様子で、頼りなさを感じたとしている。

また、このやりとりの中で、葛西りまは、■■■■が他の生徒に自分に対する嫌がらせをやらせていると述べたとされており、■■■■教諭としては、■■■■は気に入くないことがあれば自分で言うタイプなので、誰かにやらせるとは考えにくいと思っていたとのことである。もっとも、■■■■教諭も他の生徒が■■■■の意に沿うように行動していたとの認識はあり、少なくともかかる実態はあったといえる(■■■■らからあるとき突然省かれ、悪口を言われ始めた葛西りまにとっては、■■■■の積極的な指示があるとみえていた。)

この件の最後に、■■■■教諭が葛西りまに、夏休みに■■■■と会う機会があるのか尋ねたところ、そういう機会はないということだったので、■■■■教諭は、引き続き様子を見ることとした。

イ 夏休みの部活動での出来事と学校の対応

(ア) 女子バレーボール部での出来事と学校の対応

前記第2-3(1)イ(エ)のとおり、8月上旬、葛西りまが強化練習会の選手に選抜されたことをきっかけとして、■■■■、■■■■、■■■■といった女子バレーボール部内の一部の生徒から悪口を言われるなどの状況が生じた。

これについて、学校は把握していない。女子バレーボール部の練習は日曜日と月曜日を除き毎日、火曜日から金曜日の午後4時20分から4時半から6時半まで、土曜日は午前9時から12時か、午後1時から4時という時間帯で行われており、■■■■の■■■■教諭はそのほとんどについていたとのことであるが、生徒間の関係について十分把握されていない。葛西りまは、部活動において、パスの練習など、特に相手がいなくてどうしたのかと思うような場面はなく、葛西りまが選手に選抜された際も、生徒たちに特にやっかむような様子は見られなかったとしている。

(イ) LINE上の出来事と学校の対応

7月下旬頃から葛西りまは、SNS上のやりとりを、スクリーンショットで残している。7月22日の[]とのやりとりでは、[]との関係の他、この時点で葛西りまが呼ばれていたあだ名、他のメンバーとの関係も垣間見ることができる。また、8月12日には、葛西りまは、[]組のLINEグループにおいて、あだ名を使って悪口が言われ、グループを退会させられた上、さらにエスカレートした悪口が交わされている。

こうしたLINE上の出来事については、携帯電話を学校に持って行くことは禁止されており、学校側がその内容を把握することはなかった。

ウ 2学期

(ア) 2学期始めの出来事と学校の対応

a 葛西りまをめぐる出来事の把握

2学期に入ると、葛西りまに対する悪口や暴言は、葛西りまに聞こえるような形でなされている。1学期の省き・陰口から始まり、いじめ宣言を経て、2学期、直接のあだ名や悪口、すれ違いざまの暴言とだんだんエスカレートしたと述べる生徒もいる。また、こうした状況に思い悩む葛西りまの様子も目撃されている。

この点については、すぐに主任会でも報告され共有されている。8月25日の主任会確認事項中、「不登校・不登校傾向（生徒指導上の問題を抱えている）生徒への対応」の項に、葛西りまについて「欠席目立つ」との指摘がある。また、[]についても「欠席目立つ」との指摘があり、また、「LINEトラブル。友人関係注意」との指摘もされている。

8月26日の学年会議では、主任会報告として、葛西りまについて「登校したがらず。早退したが。3組内の人間関係と宿題をやれないことが原因だと思われるが。学担と本人、家庭と話す。」との話がなされている。「原因として2点挙げられたうち後者の「3組内の人間関係」の方に○が付されており、これを主たるものとみていたようではある。前者の「宿題をやれないこと」について、これを（従たるものとしてではあれ）原因の一つとして挙げている理由については記録上明らかではなかった。

生徒情報交換として「葛西りま・・・カウンセリングも必要か。（[]教諭の）[]先生にも話をしている。」との記載もされている。8月31日の主任会では、葛西りまについて、「LINEのトラブル、友人関係」の指摘がされている。

b 担任の対応

[]教諭は、7月27日の三者面談時に引き続き様子を見ることとしていた葛西りまと[]らとの関係について、葛西りまに様子を聞いている。最近はどうか、何か言われているかとの問いに対して、「言われてるけど、私言い返してる」とのことであった。

このことについて、■■■■教諭は、クラス内で葛西 しまと一緒にいることが多い生徒に確認したところ、確かに「言われてるけど、言い返してる」状況とのことであり、おとなしい生徒からは、何で言い返しちゃうの？とも見えていた状況であったとされている。

■■■■教諭は、「言い返してる」状況であるとしても、「言われる」こと自体はあるとすればそれを注意する必要があると考え、■■■■、■■■■、■■■■に対して注意をした。しかし、■■■■はもとから葛西 しまをあまり好きではなかったという思いがあること、■■■■は自分も前に同様にやられたという思いがあること、■■■■は深く考えず気持ちのまま動くこと等、真意による反省に至る状況ではなかったとしている。■■■■教諭は、上から注意するばかりでも通じないと感じ、放課後別室に連れて行き、注意を受ける生徒ら自身の気持ちも聞きながら、「でもこれはやめようよ」「こうすればいいんじゃない」と指導するよう心掛けていたとしている。

他方、こうした■■■■教諭の指導に関連して、9月上旬ころ■■■■の■■■■が学校に来て、■■■■教諭からひどい指導（トイレに行きたくても行かせない）がなされていると苦情を述べた。実際には、あと5分で授業が終わるといふときなどにトイレに行きたいと生徒が言った場合、我慢できる？と聞いて、できないと言えれば行かせるし、できると言えれば行かせない、という対応をしていたものであって、どんな場合でも行かせないという指導をしていたものではなかったため、■■■■の■■■■教諭からその旨説明するなどしたところ納得を得たが、数日後■■■■から■■■■教諭に電話があり、「お詫びの電話もないとはどういうことだ」「保健室にも行かせないとうちの子は泣いている」と、さらに苦情が述べられた。■■■■教諭は、■■■■、■■■■、■■■■が揃って保健室に来て、「腹いでえ、生理痛」と言ったので、「3人一緒に生理痛で保健室だなんて、認められると思う？もう一回戻って、本当に我慢できなかつたら来て」と言ったところ、二度目は来なかったということが以前にあったので、そのことを説明すると、■■■■は納得したが、■■■■からは、さらに、■■■■が「■■■■」と泣いているのを初めて見て、ショックを受けて電話したとの話もあった。■■■■教諭は、どちらか片方の話だけを聞いてもう一方を責めるようなことはしないと述べて会話を終えたものの、そんなショックを与えてしまったのかと思い、強く指導することに少しくじけてしまうような思いも持ったとしている。

また、■■■■教諭は、部活での状況についても、■■■■教諭に夏休みの様子を聞いている。■■■■教諭は、電車で毎日感心に通ってきて、ガッツがあつてすごいよ、と褒めており、特にトラブルがあったというような話はなかったとしている。

c 複数の教員による対応

■■■■が葛西 しまに対してすれ違いざまに「死ね」と言うということについて、9月頃、■■■■教諭、■■■■教諭、■■■■の■■■■教諭で■■■■

■を個別指導したことがあった。また、9月16日、葛西 りまが保健室で「■・■・■から悪口を言われる」と話し、■教諭が葛西 りまと面談した上で、3名を指導したということもあった。9月30日、葛西 りまは保健室を利用した際、「■の悪口も少しだけましになり、安心した」と述べている（葛西 りまは母親に、■教諭が3人を呼んで指導してくれ、その後3人がしばらくおとなしくしていると嬉しそうに述べていたことがあったとのことであり、母親の記憶ではその時期は11月ころのことであったが、このときのことである可能性が強い。）。

(イ) 起立性調節障害の診断とその後の状況

a 葛西 りまの体調不良状況の把握

葛西 りまは、9月18日に、起立性調節障害の診断を受けているが、それに先だって、2学期の始めから休みが続いている。始業式の8月25日、葛西 りまは、「やまなみ」に「今日から二学期だけど具合が悪いです。どうしましょう。」と記載し、これに対し■教諭は「体調管理しっかり！」と記載した。学校においても、家庭においても、当初、病気との認識はなく、登校を促す様子が見られる。

また、学校では、上記の通り、主任会・学年会議において、LINEトラブルや友人関係、また宿題がやれないことから、欠席が目立ち、早退したが、不登校傾向があると理解されている。カウンセリングの必要性も感じ、■教諭と連携をとっていることが窺える。2学期開始以降、葛西 りまの欠席や保健室利用は次の通りである。

8月26日（水）欠席

（27日（木）休み明けテスト）

28日（金）欠席

9月 1日（火）頭痛による保健室利用後■教諭と面談し12時早退

2日（水）欠席

7日（月）頭痛による保健室利用後8時半に早退（この日葛西 りまは、「家庭で『登校して、どうしてもだめならタクシーで早退するように。』と言われた」と述べた。）

8日（火）頭痛による保健室利用後、12時40分早退

9日（水）かぜを理由に欠席（この日■教諭は「やまなみ」に母親に対するコメントとして「風邪が長びいているんでしょうか・・・今度通院している所を教えてください」と記入した。）

10日（木）頭痛による保健室利用後、■教諭と面談した。

11日（金）欠席

13日（日）■教諭は、「やまなみ」のこの日までの週の振り返

りとして、「学校を休んでしまったときは、部活なども出ないで休養しましょう」と記載した。

- 14日(月) 吐き気による保健室利用後、[]教諭と面談し、11時半早退。葛西 りまはこの日の「やまなみ」に「今日は早退しました。頭痛とはき気がしてやばいです。」と記載している。[]教諭は(「やまなみ」の記載が少なくなっていることを危惧して)「しっかり書きましょう」と記載した。同日の主任会議事録には、「葛西(37.4℃) []との関係についてのメモが記載された。なお、[]教諭は、欠席等による学習の遅れを気にしており、学習時間が少ないことへの指摘も多い。
- 16日(水) 頭痛により保健室に来室し、「母に、今日は欠席だめと言われた。明日受診する。」と述べた。その後再度保健室に来室し、「[]・[]・[]から悪口を言われる。」と述べた。[]教諭と面談した。
- 17日(木) 腹痛により保健室を利用した。

b 起立性調節障害の診断と対応

9月18日、葛西 りまは通院のため欠席し、[]において起立性調節障害と診断され、同日、母親から[]教諭に電話で報告された。この診断を受けたことについては、前記第2-3(1)ウb(a)のとおり、葛西 りま本人も母親も前向きに受け止めていた。[]教諭は初めて聞く病名であったが、学校でできることはありますか、どういう症状が出るんですかと母親に尋ね、保健室の先生とも相談して対応していくことを告げた。

また、電話での報告と共に、家庭からは、病気についての説明が書かれた1枚の紙が学校に提出された。[]教諭にも葛西 りまがこの説明書を手渡した。

[]教諭は、クラス内で、葛西 りまの欠席や保健室利用が多いことについて葛西 りまを責める様子が見られたことは認識しており、葛西 りま及び家庭から了解を得て、病名は告げなかったものの、病院に定期的に通っていて、お医者様の指導を受けた上で休んでるので、ズル休みとかじゃなくて、具合悪くて学校に来れなくて苦しんでるんだから、責めたりとかは止めようと話をした。

しかし、この[]教諭の話については、記憶していた生徒もあったが、記憶していなかった生徒も多く、全員にきちんと受け止められたという状況ではなかった。逆に、生徒らの中には、[]の「病気のせいにして授業に出ていなかった。」との発言にあらわれているように、「病気だから休んだりしても仕方がない」という受け止めにはならず、病気が休むことの口実に

なっていると理解され、休むことについても非難の対象となっている。

c 女子バレーボール部での対応

女子バレーボール部においても葛西りまを責める状況が生じていたが、**■**教諭の認識にはなく、したがって、何ら対応はなされていない。

(ウ) 合唱コンクールに関する出来事

10月17日、18日に文化祭が開催され、初日の17日には合唱コンクールが行われた。1年3組では、前述の第2-3(1)ウcのとおり**■**が**■**、**■**、**■**、**■**、**■**が**■**となり、**■**は**■**が担当することとなった。**■**、**■**らは金賞を狙って、クラスのメンバーを巻き込んでかなり真剣に頑張っていた。

こうした中、練習の際、**■**教諭がマスクをしていた複数の生徒たちに外すよう言ったのに葛西りまが外さなかったことがあり、**■**が「マスク外せや!」ときつく言うということがあった。これに対して、**■**教諭は**■**に「**■**、注意してくれるのありがたいけども、優しくさ」と注意した。

■教諭は、学年会議などで、**■**教諭など他の教員から、金賞をとるだけの強い力があるんだから勉強や掃除などほかのことでも頑張れるよと、金賞のクラスということをアピールして、生徒たちをうまく乗せて指導するのがよいとアドバイスされ、それを励みに指導したものの、勉強面に関してははかばかしい成果は得られなかった。

(エ) 体調管理と勉強時間に関する指導

葛西りまは、起立性調節障害の診断の後、引き続いて、欠席や保健室利用等をしている。こうした状況に対して、家庭での勉強時間が十分ではないことについて学年会議で問題と認識されていた。起立性調節障害については、体調管理をするよう指導がなされ、むしろ、欠席に伴う学習の遅れに指導に重点が置かれている。

中学校では、学校の勉強だけではなく家庭学習も重要であり、「一人勉強(通称ひとべん)」を1日1頁は欠かさずやるということは全校での取組となっており、やれない生徒は昼休みや放課後に残ってこれを終えてから部活動に行くということがなされていた。また、中学校では、家庭学習の時間は「学年プラス1時間」とされており、1年生は2時間が目標値とされた。葛西りまはこれに満たない日が続いていた。

このような中、**■**教諭は、以下のとおり、「やまなみ」への記載を通じて体調管理をしっかりすることや、勉強時間を確保すること等について指導を行った。**■**教諭は**■**であったため研修に出ることも多く、その際には**■**の**■**教諭が替わって指導に入ることがしばしばあった。その際、**■**

■教諭から3組は勉強してないことが指摘されたことがあり、クラスでの取り組みが不十分であることを認識し、時間数の少ない生徒に対して、注意をするようにしていたとのことであった。

「やまなみ」からみられる葛西 りまへの■教諭の指導は次の通りである。

- 10月 7日 ■教諭が「やまなみ」の学習時間の欄に「120分！」と記載した。
- 10月22日 学年会議における生徒情報交換において、葛西 りまについて「起立性調節障害と診断された。手踊りと部活はやるのに学校を休む。提出物も出ない。」と報告されている。
- 10月27日 ■教諭が「やまなみ」に「体調が悪いときは部活・習いごとを考えましょう」と記載した。
- 11月2日から6日まで 祝日であった3日を除き連続4日欠席
- 11月10日 ■教諭が「やまなみ」に「いつ具合よくなるんだろう？続くなら、悪くてもやるという気持ちをもつしかないと思います。」と記載した。
- 11月15日 葛西 りまが「やまなみ」に「今日は弘前に出かけました。少し具合が悪いです」と記載したことを受け、■教諭が「具合が悪いなら外出も控えよう。土日は次の週に向けて体調・心を落ち着かせる時間と考えてみてはどうだろう。」と記載した。
- 11月16日 主任会において、葛西 りま他2名の生徒につき「登校しぶり 心因性」との認識が共有された。
- 11月17日 葛西 りまが「やまなみ」に「今日はまた具合が悪かったです。休みました。明日は行く。しばらく部活もいけないっぼいな・・・」と記載したことを受け、■教諭が「まずは体調第一！」と記載し、学習時間「40分」との記載に対して「不十分」と記載した。
- 11月27日 学年会議において、葛西 りまにつき「休みが減った」と報告された。併せて、「バレー部退部し、見学をした方がいいということで美術工芸部へ。■も一緒だからか」との話もされていた。
- 11月30日 葛西 りまが「やまなみ」に「今日は、かぜをひいて、休みました」と記載したことを受け、■教諭が「かぜをひいて」に下線を付した上で、「どんな症状ですか？」と記載した。
- 11月30日、12月1日 連続2日欠席
- 12月3日 ■教諭が「やまなみ」に「1週間、とり戻すのは容易ではないです。覚悟をもってすごしましょう。」と記載

- した。
- 12月8日 葛西 りまが「やまなみ」に「今日は具合悪くて早退しました。おどりも休みました。」と記載したことを受け、■■■■教諭が「おどりも休みました」に下線を付した上で、「そうですね。早退するほどなだから踊ってられないと思います。体を治しましょう」と記載した。
- 12月10日 葛西 りまが「やまなみ」に「6時間目の終わりごろに頭痛が激しくなってきました。帰ってから、スノトレとウィンドブレーカーをかいにエルムにいきました。」と記載したことを受け、■■■■教諭が「頭痛が激しく」と「帰ってから」以降の文に下線を付した上で、「頭痛が激しくなってきたら、帰ったら休めばいいと思います・・・」と記載した。
- 12月13日 葛西 りまが「やまなみ」に「今日は出かけました。帰ってからまた晩ごはんを食べに出かけました」と記載したことを受け、■■■■教諭が「ずい分外出するんだね」と記載した。

(オ) 部活動の欠席と転部の指導

a 部活動の欠席

葛西 りまの正確な部活動出席の記録はないが、2学期以降、手踊りとの両立の関係に加えて、体調面の問題が加わり、出席できない状況が続いた。葛西 りまは、■■■■教諭に対し、自分が練習に行けないのに女子バレーボール部に所属しているということが心の負担になる、と話したとされる。

b 転部の指導

これに対して、■■■■教諭は、転部を助言した。葛西 りまは10月の文化祭後に女子バレーボール部1年生で揃えて作るようになったウィンドブレーカーを注文しており、女子バレーボール部に残りたい気持ちもあったものと思われる。葛西 りまがなかなか決められない様子を見て、手踊りを校外活動という形にして部活は入らなくてもいいよと■■■■教諭はさらに助言した。

また、■■■■教諭から■■■■教諭にも、ちゃんと部活に行けていないので、他の部の方が合っているのではないかといった話があり、■■■■教諭の方からも転部を勧められている。

c 転部と葛西 りまの様子

最終的には葛西 りまは美術工芸部に転部することを選択した。前述のとおり美術工芸部の生徒は1年3組に複数おり、学年会議においては、その中の一人である■■■■■■■■■■がいることで美術工芸部を選択したのではないか

との記載がされていた。前述の9月29日に記載されたとみられるプロフィール帳にも、「やさしい人」の欄と、「好きな人」の1位の欄に■■■■の名前があり、葛西りまが当時■■■■に好感を抱いていたことが示されている。

美術工芸部の生徒たちは、部活時や、部活が終わってスクールバスの時間まで教室で過ごす際、好きなアニメの話題で盛り上がりたり■■■■教諭に色々話をしにくるなど、自己の世界を持って学校生活を楽しむ生徒たちであった。転部後、■■■■教諭が美術工芸部での葛西りまの様子を見に行くと、葛西りまは他の生徒たちの盛り上がりに参加はしていたが、少し色が違うのではないかと見える状況でもあった。

(カ) 葛西りまからの相談と対応

a 教育相談と対応

11月13日、15日、17日、20日、22日の日程で、全校で教育相談が実施されており、葛西りまは、20日または22日に、■■■■教諭に相談をしている。

これに先立つ11月16日の保健室利用時、葛西りまは、■■■■教諭に「■■■■が■■■■・■■■■と離れて、近付いてきた。調子いいとあきれている。教育相談で■■■■先生に相談したい」と述べ、■■■■教諭から■■■■教諭に報告されている。

また、11月18日に頭痛で保健室を利用した際にも、葛西りまは■■■■教諭に「■■■■・■■■■が、■■■■の悪口を言っている。教育相談で■■■■先生に相談したい」と述べ、この時期、相談を強く希望している⁵。

教育相談において、葛西りまは、友人から転送を受けた1年3組LINEグループにおけるやり取りのスクリーンショットについて、お姉ちゃんがいなければ何もできないとか、学年会長なのに居眠りしてるという内容のものが、まだそのようなことを言われていると、■■■■教諭に相談をしている。

相談の中で、行為者を注意すると誰が教諭に告げたのかという犯人探しが始まってしまう可能性があるとして■■■■教諭が指摘したところ、葛西りまもこれに納得したため、■■■■教諭は、行為者に対する注意ではなく、学級全体に、冬休み中のLINEの使い方という形で指導をしている。

内容は、「LINEやってない子たちにとって関係ない話なんだけど、これからちょっと怒る」と前置きをした上で、LINEは仲間内のことだと思

⁵ ■■■■は、■■■■、■■■■との関係について、この時期、「仲良しだった■■■■と■■■■が、最近そっけない。学級では、■■■■と■■■■しか話し相手がいなくなった。」「■■■■と距離を置き、葛西りま達と仲良くしたいが、2人にいじめられそうで心配」と話をしたとされる。しかしその後、11月24日には、「■■■■・■■■■に避けられていたのに、最近また仲良くなれた」とも述べている。そして、12月14日の主任会議事録には■■■■と■■■■が和解したとの記載がある。

って話していても電子データで全部残っているんだから探そうと思えば探せるし、消えるもんじゃない、グループがあったらグループのことだけを話して、関係ない人の話とかはするなというものであったとされる。

なお、葛西 りまにスクリーンショットを提供した生徒に対しては今度気がついたら本人に送るのではなく先生に送るよう伝えたとされる。

教育相談の際、葛西 りまから■■■■教諭に対して上記のLINEの話以外の相談は無かった。葛西 りまに対しては、■■■■教諭や■■■■教諭からも、折に触れ声掛けするなどしていたが、葛西 りまは「大丈夫」と答えており、葛西 りまに対する悪口等は収まったと教員らはみている。

b 三者面談と対応

12月14日、葛西 りまの三者面談が行われた。この日の話の内容については、■■■■教諭と母親の記憶が一致しない部分があった。■■■■教諭の記憶では、この日、冒頭、母親から、怒った様子で、きちんと相手の生徒の■■■に伝えているのかと言われ、戸惑いを覚えたとのことであったが、母親としては、平素からいきなり人に怒って話すようなことはなく、このときもそのようなことはしていないとのことであった(母親の記憶としても、面談の中で、■■■■教諭の対応に疑義を覚え、問いただす流れになったとのことではあり、時間経過の中でその場面のことが■■■■教諭の記憶に特に強く残ったという可能性はある。)

■■■■教諭は、11月の教育相談で葛西 りまから話があったLINEの件についての対応を説明したところ、母親は一応納得した様子であった。その後、進路希望の話になり、最後に、■■■■教諭から「あと何か気になることはないですか」と問うと、再度、相手の■■■に伝えてください、と言われたとしている。これに対し、■■■■教諭は慌ててしまい、誰に、何を、ということを確認せずに曖昧に「はい」と答えてしまったとのことであった。

この日の経過について、母親の記憶としては、主たるテーマは進路のことであったものの、人間関係上のトラブルのことについて、「まだなんかあるみたいですけど、どうしてるんですか、親御さんに伝えたんですか」と■■■■教諭に問うたところ、はぐらかされるような対応をされたとしており、行き違いが認められるものの、やりとりについては概ね整合している。

■■■■教諭としては、この面談の際に母親から■■■■、■■■■、■■■■とクラスを分けて欲しいとの要望があったと記憶しているが、母親は、このときではなく2月ごろに、転校しなければならないくらい辛い状況であるという話とともに、せめてクラスを分けて欲しいと述べたとしている。

なお、■■■■教諭としても、クラス編制について、■■■■、■■■■、■■■■と葛西 りまは離れた方がよいと考えており、■■■■教諭も同じ考えであった。■■■■教諭からみて、■■■■、■■■■、■■■■の関係もよいものではなく、結局、■■■■と■■■■も離すこととなった(■■■■と■■■■は同クラスとなった。)

エ 3学期

1月12日の学年会議（生徒指導研修会）では、葛西りまについて、これまでの状況と対応の確認がなされている⁶。■教諭の「やまなみ」による生活指導は、3学期においても、起立性調節障害については基本的に体調管理を指導し、休みに伴う勉強の遅れについては、勉強時間を確保することを基本においていることについて変わりはない。

1月21日には「やまなみ」に葛西りまが学習時間「60分」と記載したことに対して■教諭が「短い、少ない。120分はやるぞ」と記載し、1月28日から2月2日にかけて連続欠席した後の2月4日にも■教諭が「授業、提出物等、休んだ分取り返すのは容易ではないです。特に時間は戻らない。」と記載した。

学年会議でも、葛西りまについて、1月26日には冬休みの宿題が未提出であること、2月16日にはずっとかぜという理由で休みが多いことが指摘されている。

葛西りまは2月は欠席が多くなったが、3月になると欠席は減った。ほぼ毎日ひどい頭痛があり、朝起きられないこともあったというが、3月3日に■で頭痛薬を処方され、4日には「やまなみ」に「昨日の病院では、強めの頭痛薬をもらってきましたよー」と記載している。

3月6日、葛西りまが「やまなみ」に「今日は1日中手踊りでした。帰ってから具合悪いです」と記載したのに対し■教諭が下線を付した上で「考えよう」と記載し、3月8日にも「朝がだめなら途中からでも・・・欠席が多いと・・・」と記載した。

学年会議では、葛西りまについて、3月8日に父親から欠席の電話があったことが報告されており、3月23日には「昼の電車で午後に来るようだったが、今日は朝からこれた」との報告がされている。

3月17日には■において、頭痛は単なる偏頭痛ではなく心因性の要素もあると判断され、■が処方された。

■教諭は3月11日の卒業式以降、葛西りまが元気になったと認識しており、3月半ばころ、葛西りまから「なんとなく気持ちがさっぱりした」と聞いていた。

オ 2年生に向けての学校の対応

4月4日の学年会議（生徒指導研修会）において、葛西りまについて、①昨年9月「起立性調節障害、低血圧、偏頭痛」との診断を受けており、朝、

⁶ その内容は、次の通りである。①1学期後半37度の熱で7日欠席（6～7月）が見られた。②提出物（一人勉強、生活記録ノート）は滞りがちになることが多く見られた。③三者面談（7月実施）では、母親が「本人の望む通りにやらせたい」と言っていたので対応に配慮した。④級友とのトラブルが見られた。⑤9月に起立性調節障害との診断を受け、欠席や保健室利用が増える。⑥休み明けに体調不良を訴えるので、土日の過ごし方について確認し、声かけしている。

体調が優れずに欠席、遅刻が見られた。保健室との連携が必要であること、②自分の失敗や間違いを素直に認めることが苦手なところが見られ、周囲とのトラブルの種になることがあったこと、③■、■、■ともめていること、④親が前年度に別のクラスを要望していたため、クラス編制に配慮したことが共有されている。

クラス編制については、単に■、■、■の3名と葛西りまを離すだけではなく、■と■を■組、■を■組に配置し、教材室を挟んで■組・■組とは生活動線も異なる4組に葛西りまを配置するという配慮もなされた。

(3) 2年次の学校の対応

ア 1学期

(ア) 校則違反についての指摘と対応

a 化粧についての指摘と対応

4月、葛西りまは、順調に新たな学年をスタートしているが、4月22日、2年2組担任の■教諭がクラスの生徒から葛西りまと■が化粧しているのではないかという話を聞き、これを2人の担任の■教諭に伝えている。なお、話の出所について、■教諭は■教諭に■であるかどうかを尋ねている。■教諭は、化粧を拭きとるコットンを■教諭からもらい、2人に顔を拭かせている。結果として、化粧をしていないことが判明し、また、■教諭は、潔白を示そうとして指示したとしているが、指示をするときそのような説明が必ずしも十分になされなかったことから、2人はこれに憤慨している。

■は、いきなり「ちょっと拭いてみて」と言われて、「はてなしかない」という状況で、葛西りまの様子は、すごく怒っていたというよりは、「誰なのそういうこと言ってんの」という状況であったとしている。また、この日の「やまなみ」に葛西りまは、「けしょうを学校にきてくるって疑った人の誤解がとけるといいです。最悪な日でした。」と記載し、これに対して■教諭は「もう誰にも言わせません!!」と記載した。

このことについては、4月25日の学年会議においても、「■・葛西りま・・・化粧している疑惑は違った」と報告されている。

b アイプチに関する指摘と対応

上記aの件をきっかけとして、これまで悪口を言うときのあだ名として使われていたアイプチについても、校則違反の化粧の問題として取り上げられることとなった。上記aの件の直後、■、■、■は、2年4組の教室に来て、■教諭に葛西りまがアイプチをしていると告げ、葛西りまを校則違反として指導することを求めた。これに対しては、■教諭は、化粧のことでまた言いがかりを付けてきたと思い、適当にあしらったとし、取り合うことなく特段の対応はしていない。

その後、こうしたことと連動するように、アイプチの件は、SNS上でも言われている。■■■■が、■■■■の「アイプチも立派な化粧です。学校に化粧してくるとかw本当にあり得ない」を■■■■がリツイートし、■■■■が「学校にアイプチしてきてるひといんだってー」「そんなにかわいくみせたいのかってね」とLINEするなど、葛西りまを批判し、揶揄する言動が続いた。

学校として、アイプチを化粧の一種として禁じていたことは事実であり、6月6日にスクールバスが急停車して葛西りまが顔をぶつけてしまうということがあった際、怪我の状況を確認しようと■■■■教諭が顔を間近で見たと、アイプチをしていることを現認し(ボンドの乾いたような状態があることが見て取れた。)、■■■■の■■■■教諭に報告するとともに(■■■■教諭自身、葛西りまがアイプチをしていたことは現認している)、母親に連絡して、アイプチはメイクの一種で禁止しているのでさせないようにお願いしますと話をしたことはあった。この点について、母親としては、葛西りまが容姿のことでからかわれたりしていて、一重であることにコンプレックスを持っていたようであったので、それが解消できるのであればやむを得ない面があるのではと感じていた。

なお、1年次のことで、また、時期の特定は困難であったが、葛西りまのスカート丈が短いことについて、■■■■教諭、■■■■教諭、■■■■教諭、■■■■教諭から、葛西りまに対して複数回にわたり注意したことがあった。

また、3月の卒業式の前、頭髪検査を行った際、葛西りまの前髪が長く、■■■■教諭が注意をしたこともあった(3月2日の「やまなみ」に「前髪が長いと言われたので、今日切ろうと思います」との記載があり、この日と思われる。)。その際、葛西りまが眉毛を剃っていて無かったので、■■■■教諭はびっくりしたとのことであった。手踊りの化粧のために剃るのだと述べたが、手踊りをやっている他の生徒にそうしたことはなかったことから、■■■■教諭はおしゃれのためなのかなと考えている。

(イ) 転校の家族会議と学校の対応

葛西りまの家庭では、4月の終わりころ、転校しなければならないのではないかということを家族で話し合ったとしている。

この点について、5月ころ、母親が葛西りまの体調不良時に学校に迎えに行った際、学校側にも話をした記憶があるとのことであったが、学校側においてこの点について明確な記憶が語られ、或いは客観的な記録として残っているものはなかった。

(ウ) 不名誉な噂についての相談と対応

6月8日、前述の第2-3(2)ア(イ)dの通り、LINEで不名誉な噂を流される事件が起こった。6月10日に葛西りまから話を聞いた■■■■教諭は、中体連の前日ではあったが、他の教諭と手分けをして即日(■■■■)

まる」が選択され(なお、この用紙の作成日付は6月27日とされていた。)、6月下旬には前述の希死念慮言動も見られていた。希死念慮言動(葛西りまが車に飛び込もうとしたこと)については、葛西りまの友人生徒の■■■■が、■■■■教諭に告げたが、電話で生徒に関する話(■■■■から嫌がらせを受けているので指導して欲しいとの話)をする中で突如出てきた話で、■■■■教諭が問い返そうとするタイミングで電話が切られてしまったので、それ以上聞かずに話を終えている。■■■■教諭から後日、当該生徒に対して詳しい話を聞くということもなかった。

■■■■教諭は葛西りまの母親に対しては、何か困っていること、変わったことはありませんかと尋ねたが、希死念慮の言動に関するような話は出て来なかった。他の生徒から出た話を出すとトラブルになってしまうかもしれないと思い、それ以上聞くことはできなかった。■■■■教諭の記憶では■■■■の■■■■教諭には伝えたとのことであったが、■■■■教諭はこの点について記憶がないとのことであった。

6月27日の主任会議事録には「りま でんしゃとうこう」のメモがある。

イ 夏休み中

(ア) 三者面談での相談と対応

夏休み前、■■■■と■■■■が、葛西りまをめぐってトラブルとなることがあった。二人が、葛西りまを取り合うかたちのいさかいであり、葛西りまも心を痛めていた様子がある。7月27日の三者面談で、■■■■教諭は、この件について確認している。3人であることはないけれど、それぞれとは手踊りや、夏休みに一緒に過ごすなどしているとの答えであった。

また、三者面談では、■■■■が廊下ですれ違いざまに何か言っている気がするが、今は無視して関わらないようにしているとの話があり、■■■■教諭からは、困ったね、何か言われたらその時すぐ教えてくれればすぐ対応するよ、と話した。母親も葛西りまに対し、何を言ってるのかわからないときは気にしないようにして、何かあったら先生にすぐ話しなさいと述べていた。

また、進路についての話の中で、葛西りまは、浪中生があまり行かないところに行きたい、手踊りで仲良くしている子が通っている黒石高校に行きたい、という話をしている。

(イ) 学年会議での把握と対応

8月16日、17日に出校日があったが、葛西りまと■■■■は同日手踊りの全国大会があったため公休をとっており、これに先立つ10日、葛西りまは■■■■と共に宿題点検のため登校した。

8月22日、生徒指導研修会として、職員全体での会議があり、気になる生徒についての報告がなされ、葛西りまについて、6月の他校生徒との付き合いに関するLINEトラブルの件で不登校気味になっていること、既に

関わりのある生徒の指導がなされていること、観察・見守りを継続する必要があること、他生徒からの話として車に飛び込もうとしたとの話があること等が報告され、情報の共有はされている（ただし、さらに進んで組織的対応がとられるまでには至らなかった。）。なお、葛西りまについて、学校行事などに挑戦しようとする意欲は高く、人前での活動を好むともされている。

ウ 2学期

始業式前の登校日、葛西りまは学校に来られなかったが、これに対しては■■■■教諭から母親に電話を入れることはしなかった。葛西りまは、8月24日の始業式には通常通り登校した。■■■■教諭に対しいつもと変わらない感じで接していた。国語の授業で短歌を作る際、いいものが思い浮かばないと言う葛西りまに、■■■■教諭が手踊りの歌詞とか家族とどこかに行って楽しかったこととかを短歌にしてみたらどうかとアドバイスするなど、普通のやり取りがなされた。

当日、葛西りまが通知表を自宅に忘れたので、■■■■教諭は母親に電話で通知表を持たせるよう連絡するとともに、手踊りの全国大会がこれからであると聞き、楽しみですね、と返すなど、普段通りの話をしたとしている。しかし、翌25日、葛西りまは登校せず、命を絶ってしまった。

(4) 起立性調節障害の理解と対応

1年次の2学期、9月18日に葛西りまは起立性調節障害の診断を受け、母親から■■■■教諭に電話で報告された。■■■■教諭は初めて聞く病名であったが、学校でできることはありますか、どういう症状が出るんですかと母親に尋ね、保健室の先生とも相談して対応していくことを告げた。母親からは、病名がはっきり分かってすっきりしました、との話がされた。

葛西りまも、原因が分かって、病気だから私は具合が悪かったんだと、すっきりした感じで、医者から2ヶ月くらいしたらだいぶ良くなりますよと言われたとも述べ、前向きに受け止めていた。

電話での報告と共に、家庭からは、病気についての説明が書かれた1枚の紙が学校に提出された。■■■■教諭にも葛西りまがこの説明書を手渡した。

■■■■教諭は、隣のクラスに同じ病気の生徒がいたので（■■組の■■■■の出身小学校からの申送りに「起立性調節障害の疑い」との記載があり、この生徒のことと思われる。）当該クラスの担任に相談し、心理面のケアの観点からスクールカウンセラーの関与が必要なのではないかと考えたが、以前に葛西りまと母親にスクールカウンセラーの利用を提案した際否定的な反応であったこともあり（葛西りまは「お姉ちゃんとお母さんにしゃべってるから別にスクールカウンセラーの先生に何も言うことはない」と述べ、母親は葛西りまではなく加害側の生徒にむしろ必要なのではないかと述べていた。）、再度の提案には至らなかった。

中学校では、この当時、スクールカウンセラーの訪問が年間140時間・

35回とされており、■■■■スクールカウンセラーが概ね月に2回から4回（1回あたり4時間）訪問していた。1回あたり1、2件は相談が入っている状況であったが、内容としては不登校の保護者からの相談や、登校渋り、学校不適応の子に関する相談が多く、いじめに関するものはなかったとのことであり、スクールカウンセラーの存在は、「生徒たちが自分の辛い思いを吐露する相手」というよりは、不登校解消のための指南役と受け止められていたようである。このことは、前述の8月26日の学年会議で「登校したがらず、早退したがる」と評された葛西りまに「カウンセリングも必要か。」と話し合われていることにも表れている。このような位置づけでのカウンセリングを勧められたため、原因がなく「登校渋り」をしているわけではない葛西りまや母親から否定的な反応がなされたと思われる。

葛西りまが上記の診断を受けたことについて、学校側では、朝眠そうにしていたり、だるそうにしている、病気が原因なので無理はさせない、ということが共有されたが、それ以上に進んで、担任や学年の教員たちと■■■■教諭で疾患の理解に関する詳細な話し合いが行われるなどのことはなかった。■■■■教諭も、浪岡中学校赴任前に在職していた中学校で同じ病気と診断された生徒がいたので知ってはいたものの、朝なかなか起きられないという以上の深い理解があったというよりは、病気と診断されれば医師が対処することとなるので、治療についてはそちらに任せるということを主に考えていた。

■■■■教諭は、クラス内で、葛西りまの欠席や保健室利用が多いことについて葛西りまを責める様子が見られたことは認識しており、葛西りま及び家庭から了解を得て、病名は告げなかったものの、病院に定期的に通っていて、お医者様の指導を受けた上で休んでるから、ズル休みとかじゃなくて、具合悪くて学校に来れなくて苦しんでるんだから、責めたりとかは止めようと話をした。しかし、この■■■■教諭の話については、記憶していた生徒もあったが、記憶していなかった生徒も多く、全員にきちんと受け止められたという状況ではなかった。

その後も葛西りまは断続的に欠席や保健室利用をしており、2月には突出して欠席が多くなったが、それだけでなく雪が多く中学生にとって電車通学が困難となる2月、朝起きることが辛い病気である葛西りまの欠席が増えることはある意味致し方ないことであると受け止められ、背景に人間関係上の問題がある可能性等にまで検討が及ぶことはなかった。

3月中旬になると葛西りまは具合がよくなったように見られ、■■■■教諭が本人から「何となく気持ちがさっぱりした」と聞いてもおり、体調面は改善したものと見られていた。

2年次には4月、5月と元気な様子が見られ、保健室利用も減っており（人間関係上の悩みを訴えるようなことはなくなっていた）、学校として、起立性調節障害で引き続き慎重な対応が必要であるとの認識を持つてはいなかったと思われる。